戸外遊戯法

一名戸外運動法

坪井玄道
田中盛業 編纂

全

710
980

福島縣菊多郡小學校
福田
980

坪井玄道
田中盛業 編纂

戸外遊戯法

一名戸外運動法

坪井氏藏版

27
4
24

遊戯者

坪井氏藏版

然渾動也

東京師範學校長

從六位高崎秀夫

平井氏藏版

題

戸外遊戯法序

歐米ノ諸國ニハ皆各「ナシヨナル、ゲーム」即國戯ナルモノ有リテ之カ遊戯ノ狀態ハ雙方互ニ共同和諧ノ精神ヲ寫出シ感奮激發ノ志情ヲ現呈シ寔ニ苦樂ヲ共ニスルモノト謂フヘシ英ノ「リツケツト」米ノ「ベースボール」ノ如キハ則是ナリ顧テ我カ邦ニ行ハルヽ遊戯ノ性質ヲ察スルニ未彼ノ英米ノ國戯ノ如ク然ル能ハサルノ感アリ之ヲ要スルニ我カ邦ニ在リテハ國戯ノ稱ヲ償スヘキモノ蓋之ナシト言ヒテ可ラン人或

ハ打球ノ戲ヲ以テ我カ國戲ナリト唱フル者アレ𪜈未俄ニ之カ稱ヲ許認スル能ハサルモノアリ概シテ之ヲ言フ𠮟ハ我カ邦ノ遊戲ハ常ニ共同和諧ノ精神ヲ發露スルノ有樣ニ乏シキモノ、如シ是獨遊戲ノ一事ニ止ラス一般人民ノ風トシテ事業上往々然ルモノアリ思フニ教育ノ方法其ノ源因ノ最タルモノナラン故ニ學校ノ遊戲ニ於イテモ常ニ此ノ精神ヲ養成センコトヲ以テ一主眼トセサルヘカラス況ヤ國戲ハ彼ノ「ナシヨナル、ソング」即國歌ノ如ク自然ニ産出ス

ルモノナルヘキニ於イテヲヤ

余カ友坪井、田中ノ兩君曩ニ小學普通體操法ヲ著レ廣ク小學校ニ行ハルヘキ體操術ノ諸法ヲ記述セリ此ノ法ヤ小學科ノ正課トシテ整然施行スヘキモノニシテ余モ亦恒ニ贊美スル所ナリ頃者又戶外遊戲法ヲ編纂シ來リテ余ニ序言ノ需アリ余此ノ書ヲ閱了スルニ歐米諸國ニ行ハル各種ノ遊戲法ヲ載セ指示寔ニ丁寧ナリ世ノ體操遊戲ノ眞價ヲ悟レル者殊ニ幼童壯丁ノ教育ニ任セル者兩君前後ノ著ニ據リテ以テ實

施ノ歩ヲ進メナハ獨體育ノ責任ヲ完クスルノ
譽アルノミナラス又國戯ヲ産出スル種子ヲ播
クノ餘榮アラン

明治十八年二月

西邨　貞識ス

緒言

輓近人文ノ一變セシヨリ教育ノ道大ニ開ケ智
ニ德ニ其育成ノ法備ハラザルハナシ而ルニ獨
智、德ノ根底タル身體教育ノ法ニ於テ尚ホ未タ
備ハラザルモノアルハ何ゾヤ是レ一ハ世人ガ
體育ヲ重ズル程度ノ未ダ高カラザルト一ハ之
ヲ講究スル機會ヲ得ルヿノ乏キトニ由ルモノ
ナリ然レ𪜈今ヤ教育ノ實況ヲ顧ミルニ學校部
内ニ於ル輕運動ノ一科ハ概ネ必修科ノ一位ヲ
占メ都トナク鄙トナク多少之ニ行ハサルモノ

ナキニ至レルハ體育上既ニ一歩ヲ進メタルモノナキニアラズ而ルニ身體練成ノ法ハ元來合式體操（輕運動）ノミヲ以テ足ルモノニ非ス又併セテ戸外運動（遊戯法）ヲモ研究セザルベカラズ蓋シ戸外遊戯ノ利益タル啻ニ身體ノ強健ヲ増進スル而已ナラズ亦大ニ心神ヲ爽快ニシ優暢快活ノ氣風ヲ養成シ兒童體育上實ニ欽ク可ラザルノ一科トス然ルニ此法ニ關リテハ未ダ嘗テ一書ヲ著ハセシモノアルヲ見ス偶一、二ノ飜譯ニ係ルモノナキニアラザレ𪜈其法概子陳套ニ屬

シテ實地ノ用ニ足レルモノ甚ダ稀ナリ是ヲ以テ偶遊戯ノ運動ヲ試ミント欲スルモノアルモ據リテ以テ摸範トスベキ適當ノ著書ナク空ク望ヲ絶ソニ至ルハ體育上ノ缺典ト云フベシ

本書ハ現今歐米諸邦ニ行ハル、戸外遊戯法ノ諸書ニ就キテ其緊要ノ部分ヲ抄譯シ傍ラ平素余僅ガ教授セル各種ノ方法中特ニ本邦ノ習俗ニ適スルモノヲ蒐集シテ編成セルモノニ係レリ讀者此書ニ就キテ其要ヲ得ハ蓋シ思半ニ過グルモノアラン然レ𪜈凡ソ運動ノ方法ヲ理會

スベキ要點ハ主トシテ實地ノ練習ヲ重ヌルニアリテ專ラ書ニ就キテ之ヲ覓ントスルハ大ナル繆見ナリ夫レ書ハ僅ニ其針路方向ヲ指示スルニ止マルモノナレバ其熟練巧妙ノ境ニ達セシートセハ親シク實地ニ就キ數多ノ經驗修練ヲ積ミテ後チ始メテ充分ノ結果ヲ得ヘキナリ實動者果シテ此理ヲ銘記シテ其業ヲ積ムニ至ラハ書中不亮ノ疑義モ亦自ラ氷釋シ其身神快樂ノ效果ヲ享ルコト益シ疑ヲ容レサルナリ

明治十八年二月

編者　識ス

一本書ハ現ニ歐米諸邦ニ行ハルヽ遊戯法ノ諸書ニ基キ側ラ吾儕平素親ク得ル所ノ經驗ニ徴シ專ラ戸外ニ闢スル遊戯運動ノ方法ヲ蒐集編成スルモノナリ此書ノ編撰ニ關リテハ學友中島、中村、細井、山内ノ諸氏大ニ與リテ盡力セラル、ヲ以テ特ニ諸氏ニ向テ之ヲ謝ス

一戸外遊戯ハ其目的ト實地ノ修練トニアリテ理法ノ講明ノ如キハ之ヲ第二ニ置クモノナリ且從來多少ノ實驗ナキ人ハ尚ホ

之カ解釋ニ苦レムモノナキニアラズ是故ニ之ヲ記スル必スレモ字句章體ヲ修飾セズ專ラ實働者ノ理會ニ容易ナラン事ヲ主旨トセリ

一號令ニ二種アリ一ヲ豫令ト云ヒ一ヲ動令ト云フ豫令ハ高キ音聲ニテ最後ノ一音ヲ長ク引レ語々明瞭ニ發言レ動令ハ一聲ニ發レ音調簡短ニシテ活潑ニ之ヲ唱フベシレ

一本書中英語ヲ用フルモノ往々之アリ蓋シ遊戯ノ法タル其源ヲ泰西ニ採ルモノ多キカ故ニ悉ク邦語ヲ用フルキハ却テ實際ニ不便ヲ惹起スノミナラス強テ之カ譯字ヲ下サントスルモ未タ適當ノ術語ヲ得ズシテ充分ニ其意味ヲ盡シ難キモノアリ是レ止ム得ス原語ヲ用フル所以ニシテ特ニ「ベースボール」ノ遊戯ニ於テ然ルモノトス今左ニ「ベースボール」全體ニ關スル原辭ノ譯義ヲ附載ス

一「ベース」ヲ爲シ或ハ「ベース」ヲ取ルトハ次ノ「ベース」ニ走ルヲ云フ

一「アウト」トハ失敗ノ義ナリ

一「バウンド」トハ跳上ルト云フ義ニシテ第一「バウンド」ト云ヘバ打タレ或ハ投ケラレタル球ノ一度地ニ落チ跳上リタルヲ云フ

一「ピッチド」「ヂヤルグド」及「スローン」「ボール」ノ解ハ規則第七條ノ註解ヲ參看スベシ

一「ピッチヤル」ヨリ「ホームベース」ニ投クル球ハ凡テ「ピッチド、ボール」ナルベシ而シテ「ピッチヤル」ヨリ「ホームベース」ニ投ルト記シタルハ凡テ「ピッチド」ト云フ義ナリ

一驅逐トハ「ベース」ヨリ「ベース」ニ走ルノ間ニ於テ手ニ持チタル球ヲ以テ其走ル演習者ニ附ケテ之ヲ「アウト」ニ爲スヲ云フ

一帳簿中ニ記載スル受敗トハ「アウルボール」或ハ正シク打タレタル球ニテモ受取ラレテ其打球者ノ「アウト」ト爲リタルノ示ス「ピッチヤル」ノ投ケタル球ニテ「ホーム、ベース」ニ達スル前ニ地ニ墜チタル球ヲ「デッドボール」即チ死球ト云フ

一「フアウル、ボール」線トハ「ホームベース」ヨリ第一「ベース」及第三「ベース」ヲ通シテ畫シタル

ル直線ヲ云ヒ而シテ其長サハ無限トス

一「ファウルボール」トハ打チ損シタル球即チ打球者ノ打チタル球ニシテ「ファウルボール」線内ニ入リ又ハ同線内ニ墜チ或ハ演習者等ニ觸レタル後チ同線外ニ出テタルモノヲ云フ但同線外ニ於テ墜チ或ハ演習者等ニ觸レタル後同線内ニ入リタルモノハ之ヲ「フエヤボール」ト云フ

明治十七年十二月

編者 識ス

戸外遊戯法一名戸外運動法

目次

第一 鹿ヤ鹿ヤ 一丁　第九 二人三脚競走 十三丁
第二 盲目鬼 二丁　第十 嚢脚競走 十三丁
第三 鬼遊 二丁　第十一 ポーム(攫球) 十四丁
第四 卵帽子 九丁　第十二 綱引 十八丁
第五 日月火水 七丁　第十三 行進法 十九丁
第六 投球競争 八丁　第十四 投環(クオイッ) 廿八丁
第七 旗拾ヒ競走 十丁　第十五 投球(ボールス) 卅丁
第八 旗戻レ競走 十一丁　第十六 トロコ 卅二丁

第十七　フートボール　四十六丁
第十八　循環球（クロッケー）　五十丁
第十九　ローンテニス　六十一丁
第二十　ベースボール　六十六丁
第二十一　操櫓術　九十五丁

戸外遊戯法

一名戸外運動法

東京　坪井玄道
東京　田中盛業　編纂

第一　鹿ヤ鹿ヤ

此遊戯ハ二人ヲ以テ成立ツモノトス但判者一人ヲ加フベシ

一人ハ（或ハ目ヲ掩ヒ）鹿トナリ壁ヲ背ニ置キ上體ヲ前方ニ屈シテ頭ト臂ヲ組ムカ若クハ膝上平ニシ且其頭ヲ壁又ハ柱ニ接シ他ノ一人ヲシテ其背上ニ乗セシムヘシ而シテ其乗者ハ一本

或ハ數本ノ指ヲ擧ゲテ曰「鹿ヤ鹿ヤ」汝ハ幾本ノ角ヲ保テルヤト斯クテ鹿ノ答フル所ロ乘者ノ擧示シタル指數ー符合スルヤ否ハ「鹿」ト乘手其位置ヲ轉換シテ前法ノ如ク之ヲ行フベシ若シ符合セサルヤハ乘手又其問ヲ起シテ答ヲ試ミ其正當ノ答ヲ得ルニ至リテ位置ヲ轉換スベシ而シテ判者ノ職ハ乘者ノ不正ナル遊戲幷ニ鹿ノ外觀ヲ監視スルモノトス然レドモ時

第一圖



トシテ判者ハ第三ノ遊戲者トナリ乃チ鹿ノ答ノ正シキヤハ乘者ガ鹿トナリ判者ハ乘者トナリ鹿ハ判者トナルナリ

第二　盲目鬼（メクラオニ）

盲目鬼ハ各相互ニ姓名ヲ知レルモノ、演習スベキ遊戲ニシテ十人或ハ十五人互ヒニ手ヲ聯子テ圓形ヲナシ左或ハ右ニ側進循環シツヽ勉メテ平常ニ異ナル音聲ヲ以テ或ハ笑語シ或ハ唱歌シ又其平常ニ異ナル步調ヲナシ其中一人鬼ハ目ヲ掩ヒテ圓列ノ中央ニ居リ而シテ其所

第二圖



持セル棒ヲ以テ地ヲ撞クヤハ全列直チニ其進行ヲ止ム是ニ於テ鬼ハ其棒ヲ以テ列中ノ一人ヲ指シ指サレタルモノハ其棒ヲ握ルベシ斯クシテ鬼ハ囀音ヲナスカ或ハ吼聲ヲナスヤハ其指稱サレタルモノ隨テ其鬼ト等シキ音聲ヲ

發スベシ鬼ハ其音聲ヲ以テ其姓名ヲ判定スルモノトス故ニ鬼ニシテ其姓名ヲ明知スルヤハ姓名ヲ指稱サレタルモノ代リテ鬼トナリ前法ノ如クシ又鬼ニシテ姓名ヲ判知シ得サルヤハ全列ハ直チニ又循環進行スルモノトス

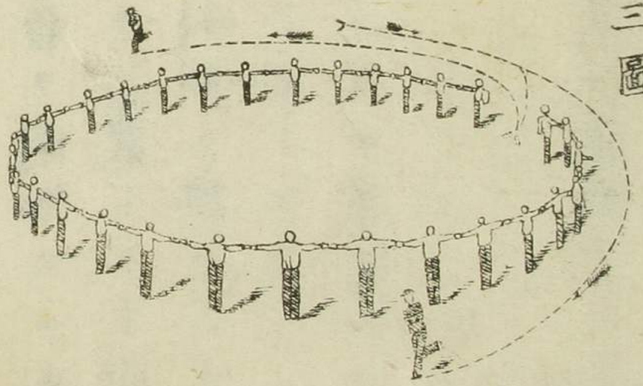
但此遊戲ヲナスヤハ判者アリテ其進行ノ方向ヲ令スルヲ要ス

第三　鬼遊一

此遊戲ハ三十人或ハ四十人互ニ其兩手ヲ連子テ圓列ヲナシ其中一人鬼ハ列外ニ在リテ其圓

形ノ周圍ヲ疾走シツヽ掌ヲ以テ列中ノ一人ノ背ヲ擊チテ尚其方向ニ走ルベシ而シテ其背ヲ擊タレタルモノハ直チニ其鬼ト反對ノ方向ニ疾走スベシ而シテ其兩者トモ相競走シテ速カニ空位ニ至ルヲ目的トスベシ已ニ其一方ノ者

第三圖

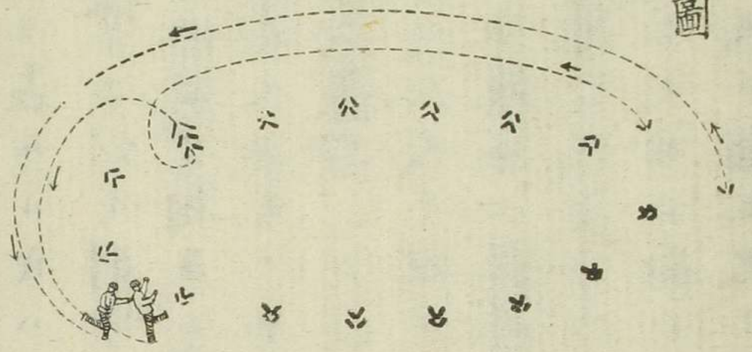


其空位ヲ占ムルヤハ他ノ一人ハ又列ノ周圍ヲ疾走シ掌ヲ以テ列中ノ一人ノ背ヲ擊チテ其地位ヲ去ラシメ相互ニ空位ヲ占メンコヲ目的トシテ競走スルモノトス

鬼遊二

此遊戲ハ二人ヲ以テ一組トシタルモノ十五組或ハ二十組各一間内外ノ距離ヲ以テ相重リテ二重ノ圓形ヲナシ二人ヲ以テ列外トシ其中一人ヲ鬼トスベシ而シテ其鬼トナリタルモノハ他ノ一人ヲ驅ヒ之ヲ捕フルヤハ捕ヒラレタル

第四圖



モノ鬼トナリテ他ノ一人ヲ驅ケベク又捕ヒラレザルニ其列中ニ加レル一組ノ前面ニ走リ入ル片ハ其最後部ニ居ルモノ直チニ疾走シテ鬼ニ追ハレ若シ捕ヒラルヽ片ハ代リテ鬼トナリ捕ヒラレザルニ列中ニ

加レル一組ノ前面ニ走リ入ル片ハ又其最後部ニ居ルモノ直チニ疾走スル前法ノ如クシテ相競走スベシ但其鬼ニ追ハルヽモノヽ列中ニ入ヤ或ハ左ヨリシ或ハ右ヨリスルモ隨意タルベシト雖モ或組ノ前面ヲ通過シ他ノ組ニ至ルヲ得ズ又其列外ノモノヽ入リタルガ爲メニ後部ノ地位ニ立テルモノハ疾走シテ他ノ組ノ前面ノ地位ヲ占ムルモ或ハ直チニ其地位ノ前ニ入ルモ妨ゲナシ

第四　卵帽子

此遊戯ヲ爲サントスル者ハ地上ノ壁ニ接邇シタル塲所ニ各其帽子ヲ並列シ且球ヲ投入スルニ便ナラシムベシ而シテ其遊戯ヲ始ムルニ方リテ演習者ハ都テ壁ヲ距ル大凡一丈五尺ノ地上ニ一線ヲ畫シタル所ニアリ其中一人ノ演習者ハ球ヲ或帽ニ投入スベシ（若シ一タビ之ヲ投テ入ラザル𪜈ハ屢次之ヲ試ムルヿヲ得）已ニ球ヲ投入スル𪜈ハ球ヲ投入セラレタル帽子ノ所持人ヲ措テ他ハ皆其塲所ヲ逃去ルベシ此時ニ於テ球ヲ投入セラレタルモノハ直チニ馳リ行キテ帽内ノ球ヲ取リ出シテ

先ツ其塲所ヲ逃去リタル演習者ノ一人ニ向ツテ抛ツベシ而シテ其球ニ打タレタルモノヽ帽ニハ所謂卵乃チ小石ヲ入ルベシ若シ其演習者ヲ打タザル𪜈ハ其球ヲ投入セラレタル帽中ニ小石ヲ入ルベシ茲ニ至リテ各演習者ハ又前ノ位地ニ並列シ其中ニ就テ帽内ニ卵ヲ置カレタルモノハ或帽中ニ球ヲ投スヘシ若シ第一回ニ球ヲ投ゲテ帽内ニ入ラザル𪜈ハ卵一個ヲ得ルモノトス但球ヲ帽中ニ入ルマテ幾回ニテモ之ヲ試ミ逐次前ノ方法ニ由リテ遊戯シ終ニ帽中

ニ卵ヲ置カル丶ヿ三個ニ及ベルモノハ遊戯外ニ驅逐セラルベシ而シテ其遊戯者中ノ一人ヲ措テ他ハ皆驅逐セラル丶ヰハ其一人ハ自ラ勝利者トナリテ罰ヲ行フノ任ニ當ルベシ其罰則ハ敗者ノ一人ヲシテ壁ニ近ク立チテ球ヲ壁ニ強ク打シメタル後ニ壁ニ背シ右臂ヲ平伸シテ掌ヲ前ニ向ケ立シメ勝利者ハ其球ノ第一ニ墜チタル塲所ニ立チ其球ヲ以テ敗者ノ掌ヲ三回狙撃スルモノトス而シテ他ノ敗者モ前上ノ位置ニ立チテ凡テ同様ノ罰ヲ受クルモノトス又

或塲所ニ於テハ一人敗者トナリタルヰハ敗者ハ壁ニ向ツテ球ヲ投ケ他ノ演習者ハ其球ノ第一ニ墜チタル塲所ニ立チテ壁ニ面シテ立チタル敗者ノ背ニ三回ツヽ球ヲ投グルモノトス右ノ如ク壁ニ向ツテ打チタル球ニシテ投球者ノ右方若クハ左方ニ墜チタルヰハ勝者ハ壁ニ向ツテ立テルモノヨリ直線ヲ畫シ其墜タル球ノ位地ト直角ヲナシタル位地ニ至リテ敗者ヲ狙撃スベシ

又或ル塲合ニハ壁ニ近キ所ニ穴ヲ鑿リテ帽

子ニ代フ其徑ハ大凡五寸深サ二寸五分トス

第五圖



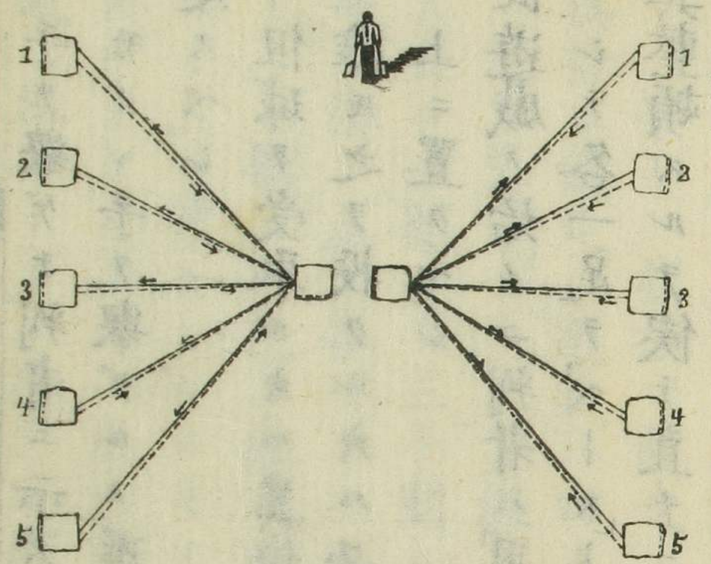
第五　日月火水木金土

此遊戯ハ七人ヲ以テ成立ツ而シテ七曜日ヲ其七人ニ命ズルガ故ニ此名アリ其方法ハ遊戯者ハ先ツ壁ヲ距ル二間許ノ地ニ並列シ今假リニ水曜日ヲ以テ投球スルモノトス即チ水曜日ハ木曜日ヲ呼ヒツヽ球ヲ壁ニ打チ木曜日ヲ除キテ他ノ演習者ハ都テ逃去ルナリ此時ニ木曜日ハ先ニ水曜日ノ投ゲタル球ノ地ニ觸レサルニ其球ヲ取ルヤハ木曜日ハ罰點ヲ得ルコトナク他人ノ名ヲ呼ヒツヽ壁ニ向ッテ球ヲ打ツベシ若シ其球ヲ取得ザルヤハ直チニ其球ヲ拾フテ演習者ノ一人ヲ狙撃スベシ若シサレバ其球ヲ以テ打タレタルモノハ他ノ遊戯者ヲ呼ンデ球ノ打ツベシ若シ其球ノ演習者ニ中ラザルキハ木曜日ハ一個ノ罰點ヲ得而シテ又壁ニ向ッテ球ヲ打ツベシ逐次斯ノ如クシテ罰點三個ヲ得タルモ

ノハ驅逐セラルベシ而シテ其勝者ノ敗者ノ罰スルノ法ハ卵帽子ニ異ナルコトナシ

第六　投球競爭

投球競爭ハ十二人或ハ十六人ヲ二組ニ分チテ之ヲ赤白ニ配シ各組三十間内外ノ距離ニ於テ兩側ニ并列セシメ判者ハ其中央線ノ上部ニ居リ又兩組各最モ熟達ノ一人ヲ其中央ノ各「ベース」ニ立タシムベシ而シテ其中央ニ立テル兩人ハ最初ニ各其球ヲ各組ノ第一番ノ者ニ向ツテ投ゲ其第一番ノ者之ヲ受取リテ直チニ又中央



第六圖

ニ立テル者ニ返シ中央ニ立テル者ハ更ニ之ヲ第二番ノ者ニ向ツテ投ケ第二番ノ者之ヲ受取リテ中央ノ者ニ投ゲ返シ逐次斯ノ如クシテ末番ノ者之ヲ受取リテ中央ノ者ニ之ヲ返スヤ中央ノ者之ヲ受取リ直チ

ニ手ヲ擧ゲテ判者ニ示スベシ判者ハ兩組中央ノモノヽ手ヲ擧グルノ遲速ニ由リテ勝敗ヲ決定スベシ

但球ヲ受取ルヤハ其位地ノ如何ヲ問ハズト雖モ之ヲ投クルヤハ必ラス其一足ヲ「ベース」上ニ置クベシ

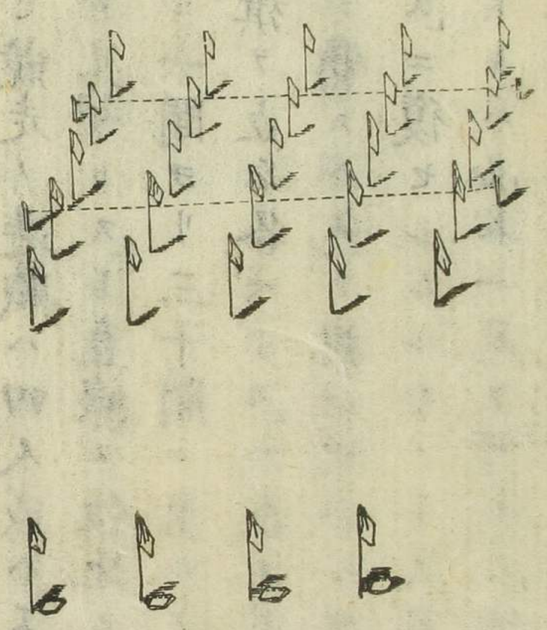
此遊戯ノ始メニ判者ハ「用意」ノ号令ヲ下シ各組ヲシテ各一足ヲ「ベース」上ニ置カシム判者ハ又其整頓スルヲ俟テ直チニ「一二三」ノ号令ヲ下シ「三」ノ号令ニ至リテ各組ヲシテ投球ヲ始メシム

ベシ而シテ判者ハ教員ヨリ撰擧スルヲ常トス

第七　旗拾ヒ競走

旗拾ヒ競走ノ遊戯ハ四人或ハ五人各其「ベース」ヲ定メ其「ベース」ト直線ノ位地ニ於テ各「ベース」ヲ去ル十間ヨリ三十間ニ至ルノ距離ニ各五間毎ニ旗ヲ立テ各「ベース」ニ在ルモノヲシテ其「ベース」ニ屬スル色ノ旗一本ツヽヲ取リテ各自ノ「ベース」ニ復セシムルモノトス且旗ヲ持チ歸リタルトキハ必ス一足ヲ「ベース」ニ着クベシ其勝敗ハ各「ベース」ニ屬スル旗ヲ取リ終ルノ遲速ニ

第七圖



由リテ決定ス但其旗ヲ取ルノ順序ハ或ハ最近ヨリスルモ或ハ最遠ヨリスルモ各人ノ隨意ニ任スモノトス（時トシテハ第二ト第三ト第四ト第五トノ中間ニ一筋ノ細引ヲ三四尺ノ高サニ張リテ障害物ヲ造ルベシ）

判者ノ号令ハ前ニ同ジ

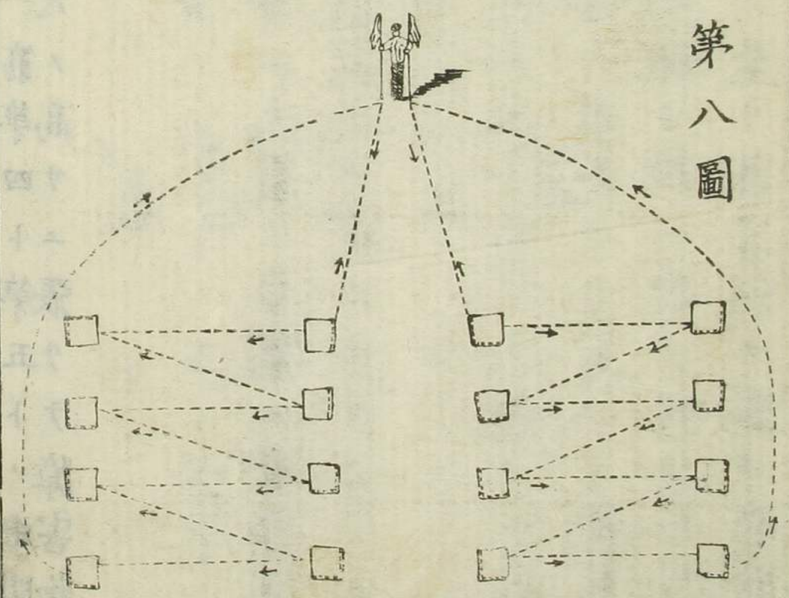
但旗ヲ立ルノ距離并ニ人員ノ多寡ハ實際遊戲ヲ爲スニ方リテ適宜之ヲ定ムルモノトス

第八　旗戻シ競爭

旗戻シ競爭ハ二十名ヲ二組トシ之ヲ赤白ニ分チ左圖ノ如ク整列セシムベシ而シテ判者ノ号令アレバ兩組ノ第一番ノモノハ直チニ走リテ判者ノ前ニ至リ各其組ノ旗ヲ受取

リ自分ノ舊位ヲ通過シテ直チニ第二番ノ者ニ渡シ其位置ニ止リ第二番ノ者ハ又旗ヲ受取ルヤ否ヤ直チニ走リ行キテ第三番ノ者ニ渡シテ其位地ニ止リ逐次前法ノ如クシテ各組ノ末番ノ者之ヲ受取ルニ至レ

第八圖



ハ直チニ走リ行キテ之ヲ判者ニ返スベシ各組末番ヨリ其旗ヲ判者ニ返スノ遅速ニ由リテ其勝敗ヲ決定スベシ但各人ノ位地ニハ各其組ノ旗ヲ立テヽ標示ス而シテ各人ハ前者ヨリ旗ヲ受取ルマデノ其標旗ヨリ手ヲ離ス可ラス判者ノ号令ハ前ニ同ジ

第九　二人三脚競走

二人三脚競走トハ二人並立シ紐ヲ以テ甲ノ右脚ト乙ノ左脚トヲ縛シテ一組トナシタルモノヽ四組或ハ五組ヨリ成立ツモノナリ各組各ベ

第九圖



ース」アリ「ベース」ヲ距ル大凡三四十間ノ位置ニ赤色、白色、黄色、紫色等ノ旗ヲ立テ各「ベース」ニモ又赤、白、黄、紫等ノ旗ヲ建テ置キ判者ノ号令ニ由リテ各組ハ各「ベース」ヲ去リテ競走シ赤ノ「ベース」ニアリシモノハ赤旗ヲ取リ白色以下モ亦同ジク其各色ノ旗ヲ取リテ其「ベース」ニ復スルモノトス而シテ其勝敗ハ

各「ベース」ニ歸リ足或ハ他ノ部分ヲ之ニ着クルノ遅速ニ由リテ之ヲ判定スルモノトス

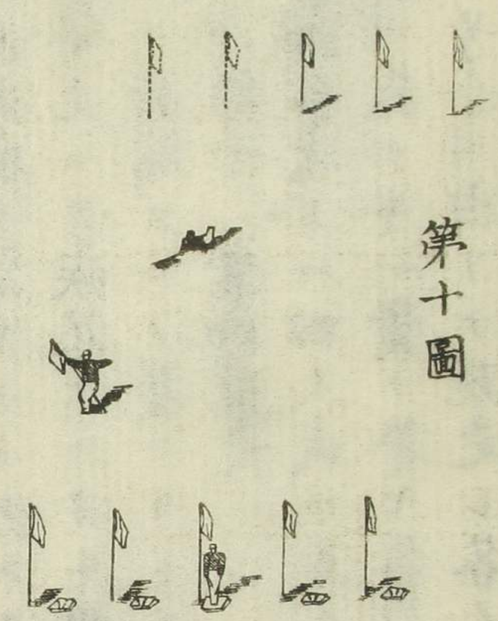
判者ノ号令ハ前ニ同ジ

此遊戯ヲ爲サントスルモノハ各組互ニ二人并立シテ疾足スルヿニ練熟スベシ然ラザレハ顛躓スルノ憂アリトス

第十　嚢脚競走

嚢脚競走トハ四人或ハ五人ノ遊戯者ハ各其兩脚ニ底ナキ一嚢ヲ着キ各其「ベース」ヲ定メ判者ノ号令ニ由リテ跳走シ各人ニ屬スル旗ヲ取リ

第十圖



テ其「ベース」ニ復スルモノトス而シテ其勝敗ハ各其「ベース」ニ復スル遅速ヲ以テ之ヲ決ス（時トシテハ「ベース」ト旗ノ中間ニ凡ソ二尺ノ高サニ細引ヲ張リテ障害物ヲ造ルベシ）

判者ノ号令ハ前ニ同ジ

此遊戯ニ供スル嚢ハ雲齋或ハ小倉織ヲ以テ「ヅボン」ノ形ニ之ヲ裁製スベシ唯二脚ヲ容ルヽニ適當ナル容量ヲ要ス若シ嚢ヲ欠クトキハ兩脚脚目ノ上邊ヲ紐ニテ縛ルモ可ナリトス

第十一　「ボーム」（攫球）

此遊戯ハ演習者ヲ赤白即チ敵味方ノ二組ニ分チテ演習スルモノトス而シテ一方ヲ攻撃者トシ一方ヲ防禦者トス

攻撃方ノ各演習者ハ球ヲ投ゲ敵方即チ防禦者ノ塞内ニ侵入シテ凱陣シ以テ勝ヲ奏セントシ防禦方ノ各演習者ハ敵ノ侵入ヲ防禦センヿヨ勉ム其方法ハ球ヲ拾ヒ取リテ之ヲ投ケ敵ヲ射

ツテ以テ之ヲ殺スカ或ハ敵即チ攻撃者ノ投ケタル球ヲ地上ニ落下スルヿナク攫取リテ敵ヲ殺スニアリ而シテ敵一人ヲ殺シタルヰハ防禦者ハ直チニ代リテ攻撃者トナルヘシ又攻撃者ノ投ケタル球ノ地ニ落ツル前ニ之ヲ受取ルハ敵ヲ射殺スルト其功ヲ同ス故ニ攫球ノ名アリ

遊戯場

一遊戯場ハ演習者ノ年齢人數等ニ從ヒ長濶ヲ異ニスルヲ要スルモ通常長サ三十間以上ニシテ濶サ十五間以上ナル可シ

一遊戯場ヲ二陣ト戰場トノ三區ニ分ツ

一各陣ハ遊戯場ノ十分ノ一ニシテ戰場ヲ十分ノ八トス

一塞ハ陣境ヲ距ル二間遊戯場ノ境ヲ距ル其濶サノ四分ノ一ナル所ニ設ク

第十一圖



目標トナルベキ小石或ハ其他角ナキモノヲ以テ塞ノ位置ヲ明示スベシ但杭ヲ用ユ可ラズ

演習規則

一演習者ノ人數ニ定限ナシト雖モ凡ソ十人以上ナルベシ

一演習者ヲ二組ニ分チ一ヲ攻撃者トシ一ヲ防禦者トス

一攻撃者防禦者ハ抽鬮或ハ其他ノ方法ニヨリ之ヲ定ム

一攻撃者ハ味方ノ陣中ニ籠居シ防禦者ハ戰場及味方ノ陣内ニ散居ス

攻撃者

一攻撃者ハ球ヲ投ケタル后チ殺（敵ノ為ニ射撃セラルヽヲ云フ）サレズシテ敵塞ニ侵入シ又殺サレスシテ歸陣スルヲ目的トス

攻撃者ノ一人陣境ノ中點ニ於テ球ヲ投ケ敵ノ爲ニ殺サレサル様注意シ直ニ敵塞ニ向テ走行シ敵塞ニ達セシ後都合宜キハ直ニ歸陣ス可シ

球ヲ投ケ直ニ走行シ敵塞ニ達スルヲ得ルモ球已ニ敵手ニ落ルカ或ハ殺サルヽヲ危ムキハ敵塞内ニ籠居シ次ノ攻撃者ノ投球スルヲ待テ歸陣ヲ謀ル可シ

球ヲ投ケ敵塞ニ走行セントスルニ球已ニ敵手ニ落ルカ或ハ殺ルヽヲ危ムキハ敵塞ニ行クヲ見合セ味方ノ塞内ニ籠居シ次ノ攻撃者ノ投球スルヲ待テ侵入ヲ試ム可シ

一度ニ數點ヲ得ンガ爲數人ノ攻撃者其塞内ニ籠居シ味方中ノ投球スルニ巧ナルモノ、投球スルヲ待テ侵入スルモ歸陣アルモ妨ケ無シ

一投球ハ戰場ノ三分ノ一以外ニ達スルヲ要ス球ノ戰場ノ三分ノ一以外ニ達セザルモノ之ヲ死球ト稱ス斯ノ如キ場合ニテリテハ敵陣ニ侵入シ或ハ之ヨリ歸陣スルヲ得ス而シテ其投球シタル演習者ハ直ニ自分ノ塞内ニ入リ籠居スベシ

一一度ヒ防禦者ノ掌ニ觸レシル球地上ニ落レハ死球ト云フ球死シタル時ハ攻撃者ハ敵塞

ニ侵入スル能ズ又歸陣スルヲ得ズ

一死球ハ防禦者ヨリ之ヲ攻撃者ニ投與ス可シ

一一度敵塞ニ侵入シ而シテ歸陣スルヲ一點トス

一點數ノ早ク定數ニ達シタル組ヲ以テ勝利者トス

定數ハ演習者ノ意ニ任スト雖ヒ人數ニ等シキ數ヲ以テ之ヲ定ムルヲ常トス又演習者十人以下ナレバ十二點ヲ以テ定點トス

防禦者

一防禦者ハ球ヲ攫取シ或ハ球ヲ以テ攻撃者ヲ射テ之ヲ殺スヲ目的トス

一球ヲ攫取シタルトキ或ハ敵ヲ射殺シタルトキハ攻撃者ハ其權利ヲ失ヒ防禦者トナリ防禦者ハ却テ攻撃者トナル

一防禦者ハ便宜ニ從ヒ球ヲ味方ニ手渡シ或ハ投與スルヲ得但地上ニ落セハ球死シテ敵ヲ射殺スノ效力ヲ失フモノトス

第十二　綱引

綱引ハ單一ノ遊戯ニシテ最初ニ闖或ハ他ノ方

法ヲ以テ演習者ヲ二組ニ分チ敵ト味方トレ各組綱ノ中央ニ標徽ヲ爲レ其兩端ヲ相引キ其中央ノ標徽ヲ超越セレメラレタル組ヲ敗トス

此遊戲ヲナスニハ各組首領一人ヲ選ビ之ヲレ遊戲ノ指揮ヲ掌ラシムルモノトス故ニ首領ハ遊戲ヲ始ムル前ニ其組員ニ綱ヲ引クノ方法ニ付テ止メ、緩メ、或ハ強ク引ケ等ノ暗號ヲ傳達レ置キ以テ指揮ニ便スベシ實ニ首領ハ綱引ニ於テハ要用ナルモノニシテ若シ各組ノ一方ハ精銳ノ演習者ヨリ成立ツモ首領ナカリセバ寧ロ一方ノ軟弱ノ演習者ヨリ成立ツモ良キ首領ヲ有スル組ニ敗ラルベシ例ヘハ兩組強ク引クキニ一方ノ首領ハ其敵方ノ力量ヨリハ寧ロ重量ニ由リテ綱ヲ引クヲ發顯レ「緩メ」ノ暗號ヲ傳ヘタランニハ該組立ドコロニ後方ニ倒レ失敗スルヿアルベシ或ハ又敵方ノ強ク引キ疲勞甚シキニ乘ジ敵ノ隙ヲ窺ヒ強ク引ケ」ノ暗號ヲ令レテ合同ノ力ニ由リ引カシムルキハ忽チ敵ヲ眞直ノ位置ニ引キ起レ容易ク勝利ヲ得ルヿアルベシ

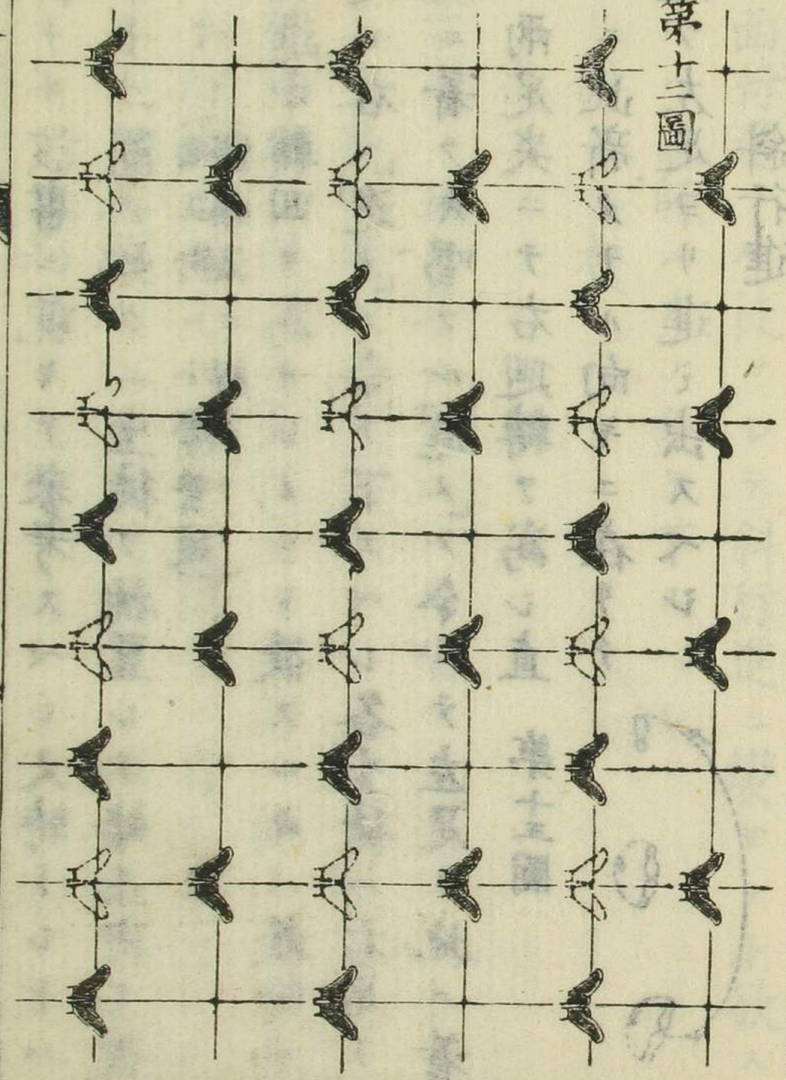
右遊戯ニ用フル綱ニハ節ナキヲ要ス又其所謂勝利トハ敵ヲシテ全ク標徽即チ中央線ヲ超越セシメ該組ノ方ニ引キタルモノヲ云フ

判者ノ号令ハ前ニ同ジ

第十三　行進法

行進法ハ重ニ小學生徒ニ適用スベキモノニテ左ニ擧示スル所ノ諸種ノ行進法ハ左右整準、左右轉向、足踏、右廻轉、正面行進、側面行進、停止法、方向變換法等ヲ授ケテ後教フル者トス但以上擧クル所ノ方法ハ小學普通體操法整頓ノ部中ニ

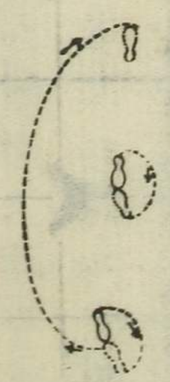
第十二圖



詳ナリ該書ニ就キテ參考スベシ又時トシテハ第十二圖ノ如クニ生徒ヲ排置シテ矯正術ヲ授クベシ（矯正術ハ小學普通體操法ニ詳ナリ）

行進中轉回ヲ爲サシメント欲スルトキハ教師ハ「廻レ右ヘ」「進メ」ノ令ヲ下スベシ各生徒ハ右足ヲ地ニ着クトキ唱フル「進メ」ノ令ニテ左足ヲ地ニ着ケ兩足尖ニテ右廻轉ヲ爲シ直チニ此新タナル向キニ在リテ先ツ左足ヨリ進ミ出スベシ

第十三圖



斜行進

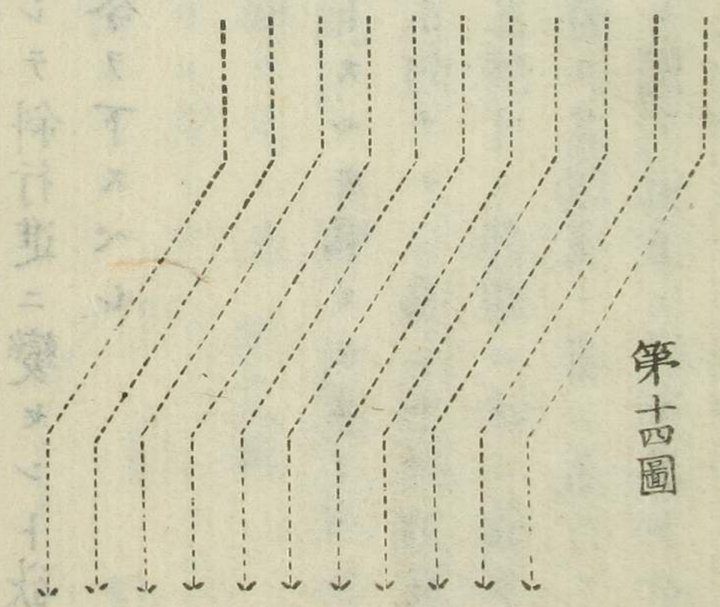
正面行進ノ生徒ヲシテ斜行進ニ變セント欲スルトキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

斜メニ右（左）ヘ

進メ

左（右）足ノ地ニ着ントスルトキ唱フル「進メ」ノ令ニテ各生徒ハ半バ右（左）向ヲナシ而シテ後正直ニ新線中ニ行進シ右（左）隣生ノ肩線ニ眼ヲ注ギ歩法ヲ加減シテ己ノ肩ヲ其隣生ノ肩ニ並行スル如クナシ其頭ヲ以テ同列他生ノ頭ヲ掩フ如クニナスベシ而シテ又斜行進ヲ正面行進ニ復セ

シメント欲スル
ヰハ教師ハ左ノ
令ヲ下スベシ
前ヘ
進メ
右(左)足ノ將サニ
地ニ着ントスル
ヰ唱フル「進メ」ノ
令ニテ各生ハ半
バ左(右)向ヲナシ



第十四圖

而シテ後正面行進ノ法ニ從フテ正面ニ行進ス
ヘシ
一直線ニ正面整列ノ生徒ヲ二列ニ編制セント
スルヰハ全數ヲ兩分シテ中ヨリ始メ兩端ニ番
號ヲ呼バシメタル後教師ハ左ノ令ヲ下スベシ
内ヘ
向ケ
前ヘ
進メ
「向ケ」ノ令ニテ第一分ノ生徒ハ皆左(右)向ヲナシ

第二分ノ生徒ハ皆右(左)向ヲナス次ニ「前ヘ」「進メ」ノ令ニテ兩分ノ第一位ノ生徒ハ教師ニ向ヒテ轉向シ互ニ肘ヲ接シテ一伍ヲナシ同時ニ教師ノ方ニ進行シ第二位ノ生徒ハ第一位ノ塲所ニ進ミテ同法ヲ行ヒテ第一位ノ生徒ニ次ギ第三位第四位以下同法ヲ行ヒ以テ二列ヲ編制セシムベシ(第十五圖)

各伍方向變換

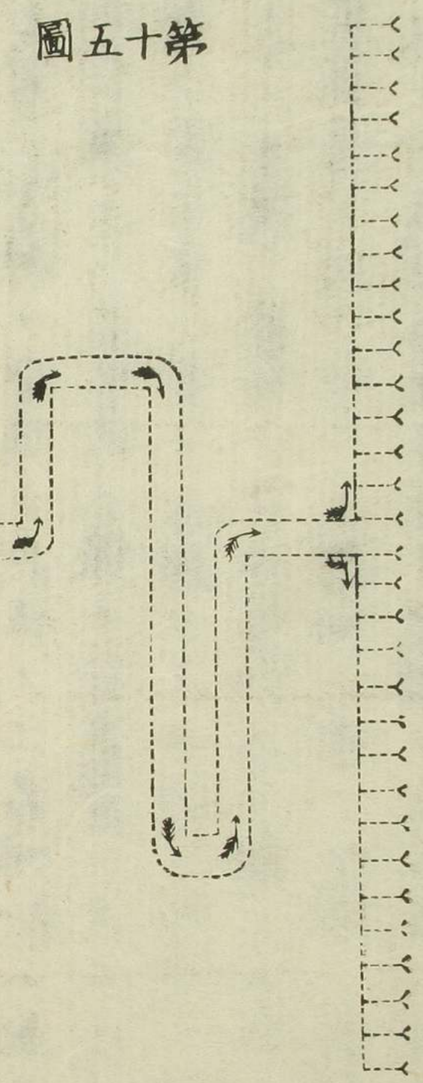
側面行進ノ時各伍ノ方向ヲ變換セントスルトキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

伍々(クミグミ)左(右)ヘ

進メ

「進メ」ノ令ニテ先頭ノ一伍ハ圜ノ小弧ヲ畫キツヽ左(右)ニ方向ヲ變換シ此伍ノ二名(或ハ四名)ハ軸生ノ方ニ準ヒテ其整頓ヲ保チ行進翼ニアル生徒ハ常ニ同ジ歩ノ長サト速サトヲ以テ行進シ軸ニ在ル生徒ハ最初ノ三四歩(五六歩)ヲ縮メ各伍ハ其先行伍ト同ジ所ニテ轉向シ常ニ伍間ノ距離ヲ保チ行進間各生止リテ足踏ヲナシ或ハ突當ル等ノ「アラザル如クナスベシ

第十五圖



二列側面行進ノ生徒ヲシテ進行ヲ止ムルヿナク左右ニ分レテ退進セシメントスルキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ（第十六圖）

退行（トモドリ）右左（ミギヒダリ）ニ分レ

進メ

「進メ」ノ令ニテ第一伍ノ生徒ハ左右ニ開キ轉廻シテ返對ノ方向ニ退進スベシ第二伍第三伍等第一伍ノ場所ニ至リ同法ヲ行ヒテ退進スベシ而シテ斯ノ如ク分レタル生徒ヲ合セテ退進セシメントスルキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

退行内ニ併セ

進メ

「進メ」ノ令ニテ第一位ノ生徒ハ各内方ニ轉廻シ一伍ヲナシテ行進スベシ第二位第三位以下第一位ノ場所ニ至リテ同法ヲ行フベシ而シテ二列側面行進ノ生徒ヲシテ進行ヲ止ムルヿナク左右ニ分レ各側ニ二列ヲ作リテ退進セシメントスル片ハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

退行右左ニ二列作レ

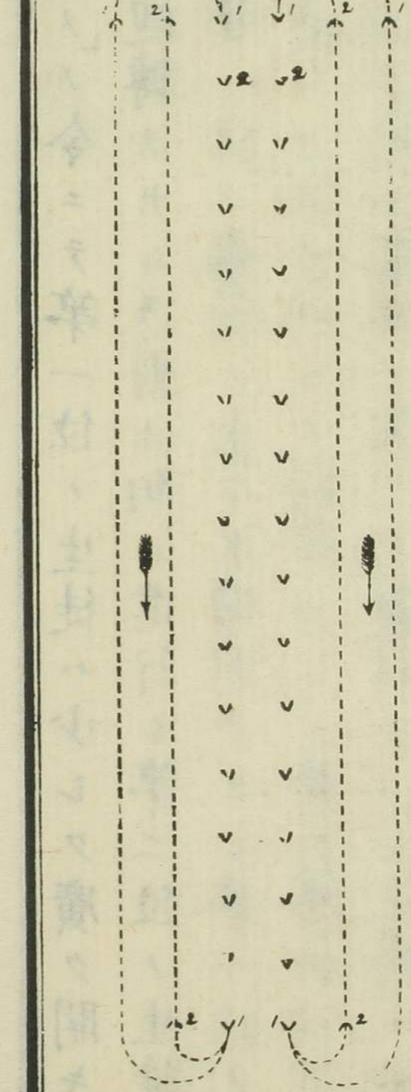
進メ

「進メ」ノ令ニテ第一位ノ生徒ハ少シク廣ク開キテ廻轉ヲナシ返對ノ向ニ進行シ第二位ノ生徒ハ第一位ノ場所ニ至リテ轉廻ヲナシ第一位ノ生徒ト一伍ヲナシテ行進スベシ第三第四以下同法ヲ行ヒ各伍ヲ作リテ進行スベシ又斯ノ如ク分レタル各二列ノ生徒ヲ併セ四列トナシテ退行セシメントスル片ハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

退行内ニ併セ

進メ

第十六圖



第十七圖

「進メ」ノ令ニテ各第一伍外翼ノ生徒ハ早足ノ歩調（通常ノ歩調ハ一ナリ）ニテ内方ニ廻轉シ軸生モ亦同方ニ廻轉ヲナシ四列ヲ作リテ行進スベシ第二第三伍等第一伍ノ場所ニ至リテ同法ヲ行ヒ行進スベシ

二列側面行進ノ生徒ヲ一列ニ復セント欲スルトキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

一列作レ

進メ

「進メ」ノ令ニテ第一伍ノ生徒ハ前進スルコトナク

足踏ヲナシ第二伍ノ生徒ハ各第一伍ノ後ヲ通過シテ其側ニ出デヽ足踏ヲナシ第三第四第五等同法ヲ行ヒテ一列ヲ作ルベシ（一列ノ生徒ヲ二列ニ変セントスル片「内ヘ」「向ケ」及「前ヘ」「進メ」ノ令ヲ用ヒテ二列ヲ作ルベシ）（第十五圖）

二列側面行進ノ生徒ヲシテ左右ニ分レ各側ニ四列ヲ作リテ退進セシメントスル片ハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ（第十八圖）

退行右左ニ四列作レ

進メ

「進メ」ノ令ニテ第一位ノ生徒ハ廣ク廻轉ヲナシ

第二位ノ生徒ハ之ニ次ギテ廣ク廻轉シ第三位第四位同法ヲ行ヒ四列ヲ作リテ行進スベシ而シテ斯ノ如ク左右四列ノ生徒ヲ合セテ退進セシメントスル片ハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

退行内ニ併セ

進メ

「進メ」ノ令ニテ各四列ノ生徒ハ第四番ヲ軸トシテ轉廻ヲナシ八列トナリテ行進スベシ而シテ又八列ノ生徒ヲ左右ニ分テ退進セシメントスル片ハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

退行右左ニ分レ
進メ

「進メ」ノ令ニテ各伍ハ第四番ヲ軸トシ轉廻ヲナシ行進スベシ而シテ各側四列ノ生徒ヲ一列ニ復シテ一伍トナシ退進セシメントスルキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ（第十九圖）

退行一列作レ
進メ

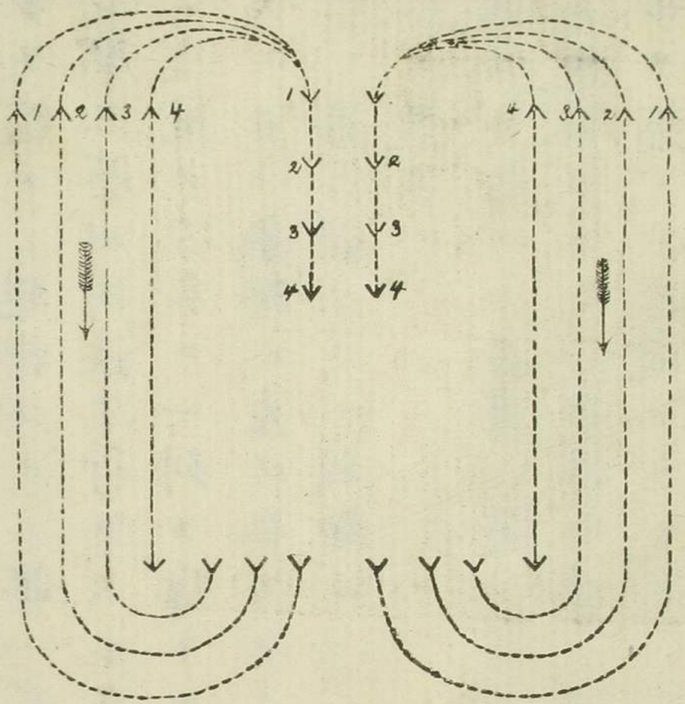
「進メ」ノ令ニテ各第一番ノ生徒ハ早足ノ歩調ニテ廻轉ヲナシテ退進シ第二番ノ生徒ハ少シク歩ヲ縮メテ廻轉ヲナシ第三第四同法ヲ行フベシ

「進メ」ノ令ニテ各第一番ノ生徒ニ從フベシ第三第四同法ヲ行フベシ又各四列卽チ八列ノ生徒ヲ左右ニ一列ヲ作リテ退進セシメントスルキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

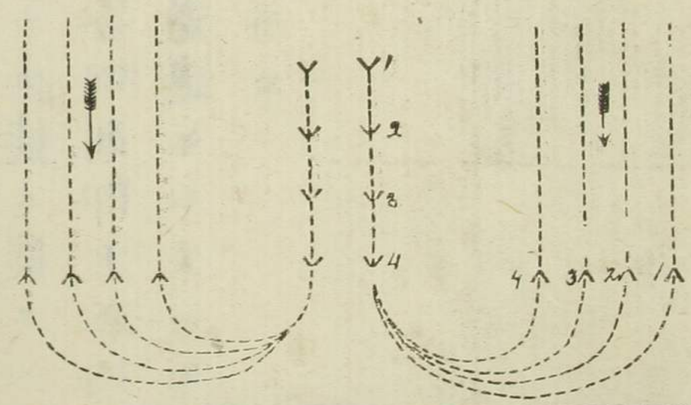
退行右左ニ一列作レ
進メ

「進メ」ノ令ニテ各第一番ノ生徒ハ早足ノ歩調ニテ廻轉ヲナシテ退進シ第二番ノ生徒ハ少シク歩ヲ縮メテ廻轉ヲナシ第一番ノ生徒ニ隨ヒ第三第四同法ヲ行フベシ

第十八圖



第十九圖



各生方向變換

行進間ニ於テ各生ヲシテ右(左)向ヲナサシメントスルトキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

右(左)向ケ

進メ

左(右)足ノ將サニ地ニ就カントスル前ニ唱フル「進メ」ノ令ニテ各生徒ハ體ヲ轉ジテ擧ゲタル足ヲ新タナル方向ニ置キ他ノ足ニテ踏出シ歩ノ調子ヲ變スルヿナク速カニ行進スベシ

二列側面行進ノ生徒ヲシテ圓形ヲ作ラシメン

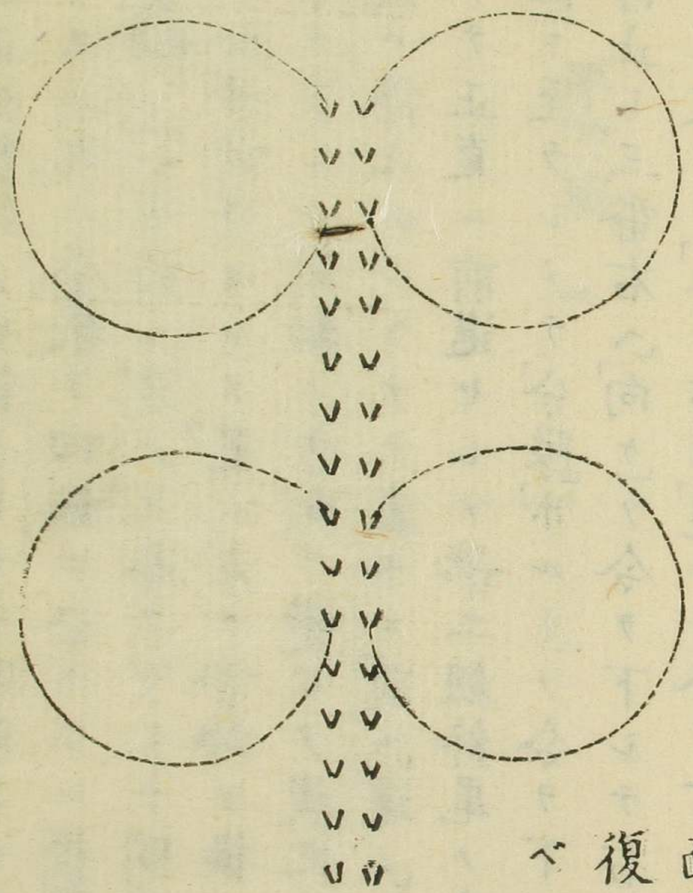
トスルトキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

(各組)圓形作レ

進メ

「進メ」ノ令ニテ右列ノ各組第一位ノ生徒ハ右方ニ向キ行進ヲナシ第二位以下之ニ次キ左列ノ各組第一位ノ生徒ハ左方ニ向キテ行進ヲナシ第二位以下又之ニ次ギ斯ノ如クシテ各組ノ生徒ヲシテ圓形ヲ作ラシメ數回循環セシメタル後各組第一位ノ生徒ノ相接セントスル時教師ハ「前ヘ」「進メ」ノ令ヲ下シテ圓形ノ生徒ヲ二列側

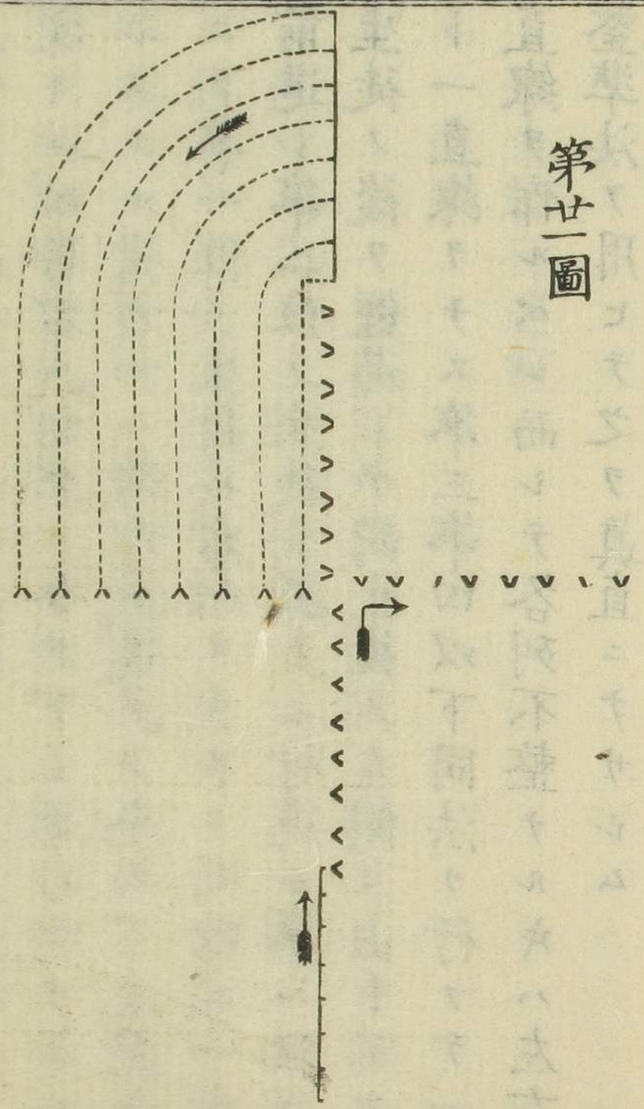
第廿圖



面行進ニ復セシムベシ

一列正面整列ノ生徒ヲシテ十字形ヲナサシメ
ントスルキハ全數ヲ四組ニ分チタル後教師ハ
「一番(組第一)一歩前ヘ進メ」ノ令ヲ下シテ同生徒ヲ
シテ一歩前進セシメ更ニ「左ニ方向ヲ換ヘ」「進メ」
ノ令ヲ下シテ同組ノ方向ヲ變ジテ後之ヲ停止
シ或ハ停止スルナク直チニ「前ヘ」「進メ」ノ令ヲ
下シテ正直ニ前進セシメ第二組終尾ノ生徒ノ
地位ニ至ラシメテ「分隊」「ホルト」ノ令ヲ下シテ之
ヲ停止シ「三番右ヘ」「向ケ」ノ令ヲ下シテ右向ヲナ
サシメ次キニ「伍々右ヘ」「進メ」ノ令ヲ下シ而シテ

第廿一圖



其位置ニ達シタルトキ停止シテ左向ヲ爲サシメ次キニ「四番右ヘ」「向ケ」ノ令ヲ下シテ右向ヲナサシメタル後「右ニ一列作レ」「進メ」ノ令ヲ下ス此令ニテ第一位ノ生徒ハ右向ヲナスト同時ニ一歩前進シ第二位ノ生徒ハ眞直ニ行進シ第一位ノ生徒ノ後ヲ經過シテ同生徒ノ左側ニ出テヽ之ト一直線ヲナス第三第四以下同法ヲ行フテ一直線ヲ作ルベシ而シテ各列不整ナルトキハ左右整準法ヲ用ヒテ之ヲ眞直ニナサシム

斯ノ如ク十字形ヲ作リタル生徒ヲシテ車輪狀ニ行進セシメントスルトキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

車輪行進前ヘ

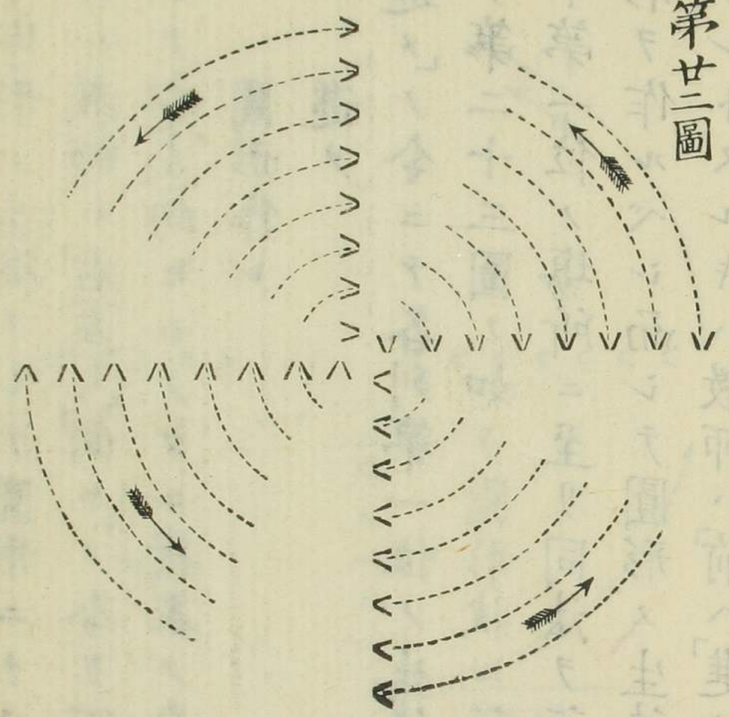
進メ

「進メ」ノ令ニテ各列外端ノ生徒ハ早足ノ歩調ニテ進行シ他ノ生徒ハ旋軸ニ近ヨルニ隨ツテ歩ヲ縮メテ行進シテ車輪狀ニ進行スベシ而シテ外端ノ一生ハ軸ノ方ニ眼ヲ注キ其他ノ生徒ハ擘ヲ軸方ノ生徒ニ接シテ軸ヨリ離レザル様ニ注意シ眼ヲ外端ニ注ギ外端ノ生徒ト旋軸ノ生

徒トヲ以テ作リタル一直線ニ出入セザル様ニ注意シテ行進スベシ

斯ノ如ク行進セシ生徒ヲ逆行セシメントスルトキハ教師ハ「全隊」「ホルト」ノ令ヲ下シテ行進ヲ停止シタル後「廻レ」「右」ノ令ヲ下シテ右廻轉ヲナサシメ而シテ「車輪行進前ヘ」「進メ」ノ令ヲ下シテ行進セシムベシ或ハ行進ヲ停止スルヿナク逆行セシメントスルトキハ教師ハ「廻レ右ヘ」「進メ」ノ令ヲ下スベシ此「進メ」ノ令ニテ各生徒ハ左足ヲ地ニ付ケ兩足尖ニテ右廻轉ヲナシテ停止スルヿナク左足ヨリ行進スベシ

第廿二圖



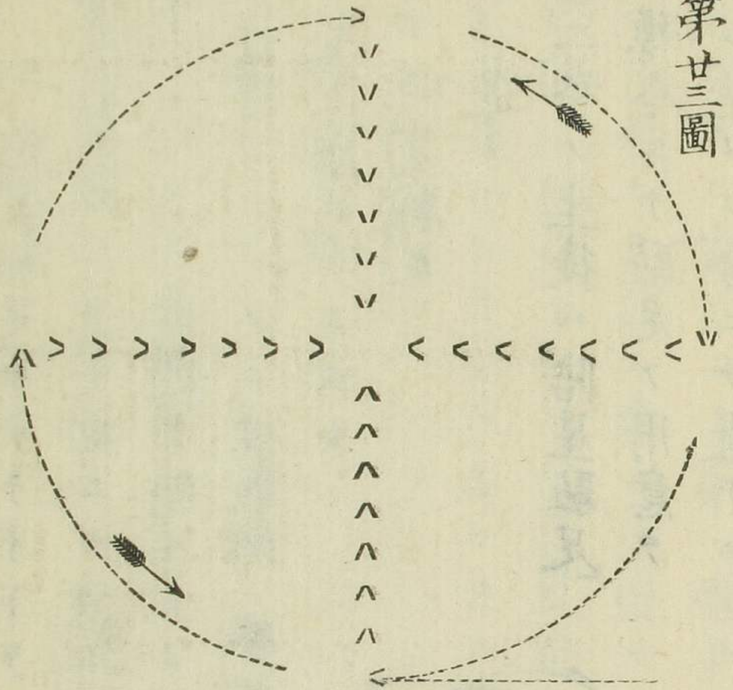
十字形ノ生徒ヲシテ圓形ニナサシメントスル
片ハ教師ハ「右(左)ヘ」「向ケ」ノ令ヲ下シテ各生徒ヲ
シテ右(左)向セシメタル後左ノ令ヲ下スベシ

圓形作レ

進メ

「進メ」ノ令ニテ各列第一位ノ生徒ハ左向ヲナシ
テ第二十三圖ノ如ク圓形狀ニ行進シ第二位以
下第一位ノ場所ニ至リ同法ヲ行ヒ行進シテ圓
形ヲ作ルベシ而シテ圓形ノ生徒ヲ一直線ニナ
サントスル片ハ教師ハ「前ヘ」「進メ」ノ令ヲ下スベ

第廿三圖



シ「進メ」ノ令ニ
テ第一列第一
位ノ生徒ハ眞
直ニ行進シ第
二位以下第一
位ノ場所ニ至
リ眞直ニ行進
スベシ

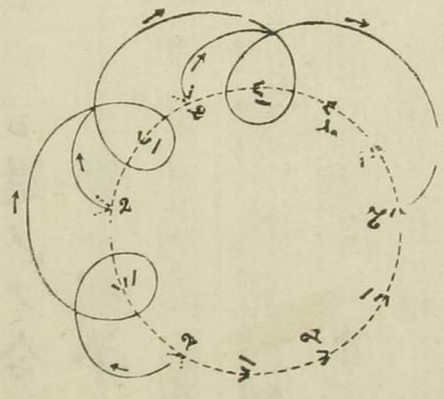
陪星駈足（サテライト、ラン）

陪星駈足ハ行進ヲ初ムル前ニ首位ノ生徒ヨリ各一二、一二ノ番號ヲ唱ヘシメタル後圓形ヲ作リ行進セシメタル後教師第廿四圖ハ左ノ令ヲ下スベシ

陪星駈足（ゼイセイカケアシ）

進メ

各二番ノ生徒ハ「陪星駈足」ノ豫令ニテ駈足ノ用意ヲナシ「進メ」ノ令ニテ直チニ



駈足ヲナシ左方ヨリ第一番ヲ廻リナガラ行進スベシ而シテ各一番ノ生徒ハ早足ノ歩調ニテ圓形狀ニ行進スベシ又各貳番ヲ元ノ位地ニ復シテ行進セシメントスルトキハ教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

陪星早足

進メ

「進メ」ノ令ニテ各貳番ノ生徒ハ元ノ位地ニ復シ早足ノ歩調ニテ行進スベシ（圓形狀ヲ一直線ニ復セシメントスルトキハ「前ヘ」「進メ」ノ令ヲ以テ一列ニ復ス第二十三圖ヲ看ヨ）

機織駈足（ウイヴアルス、ラン）

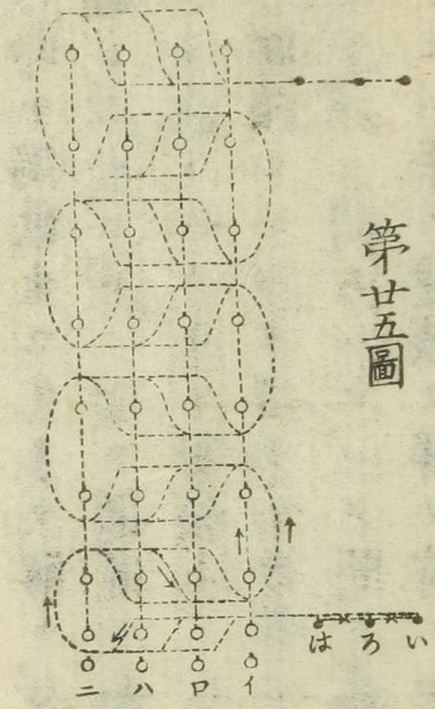
機織駈足ヲナサントスルトキハ第二十五圖ノ如ク「イ」「ロ」ハ「ニ」等ノ奇數即チ一番ノモノヲ互ニ手ヲ聯鎖シテ並列セシメ而シテ「い」「ろ」「は」等ノ偶數即チ二番ノ者ヲ互ニ手ヲ聯鎖シテ奇數生ノ右側三四歩前ノ地ニ並列セシメタル後教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

織法駈足（オリカタカケアシ）

進メ

「進メ」ノ令ニテ各一番即チ奇數生ハ早足ノ歩調ニテ行進シ偶數生即チ各二番ノ生徒ハ駈足ノ歩調ニテ奇數生ノ前面ニ側面行進シ最後ノ偶數生即チ「は」ハ「イ」ノ前面ニ到ルトキ奇數生ハ皆手ノ聯鎖ヲ解キ偶數生ヲシテ其間ヲ通過セシム即チ偶數生モ其手ヲ解キ「は」ハ「イ」「ロ」ノ間ヲ通過シ「ろ」ハ「ロ」「ハ」ノ間ヲ通過シ而シテ奇數生ハ直チニ前ノ如ク手ヲ聯鎖シテ行進シ偶數モ亦手ヲ聯鎖シテ「ハ」ヲ廻リテ奇數ノ前面ニ至リ又「い」ハ「イ」「ロ」ノ間「ろ」ハ「ロ」「ハ」ノ間ヲ通過シ此時奇偶生トモニ手ノ連鎖ヲ解ク前ノ如ク「イ」ヲ廻リテ奇

第廿五圖



數ノ前面ニ至ルヘシ斯ノ如クシテ場所ノ廣狹ニ由リ五回若クハ十回之ヲ行フヘシ又方向ヲ轉シテ前法ヲ行フベシ

此行進ヲナストキハ一組七人ヨリ少ナカラス又二十五人ヨリ多カル可ラサルモノトス而シテ奇數生ハ常ニ偶數生ヨリ一人多カルベシ

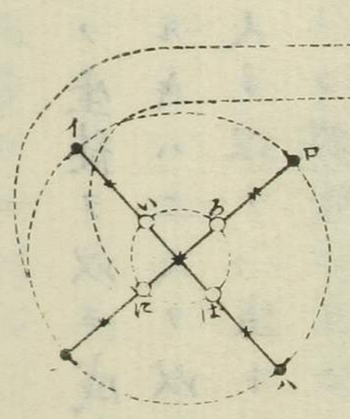
車輪行進

車輪行進ハ八人又ハ十二人ノ生徒ヲ以テ成立ツモノトス而シテ其八人ナルトキハ二人ヲ以テ一伍トシ十二人ナルキハ三人ヲ以テ一伍トス今八人ヲ以テ行進ヲナスモノト假定シ左ノ一例ヲ示サンニ始メ生徒ヲシテ互ニ手ヲ握ラシメテ二列側面ニ行進セシメタル後教師ハ左ノ令ヲ下スベシ

車輪作レ

進メ

「進メ」ノ令ニテ第一伍ノ右翼生徒ハ早足ノ歩調ヲ以テ左ニ方向ヲ變ジ左翼即チ軸生ハ歩ヲ縮メテ同シク左ニ方向ヲ變ジテ行進シ第二伍ハ第一伍ノ場所ニ至リテ同法ヲ行ヒ斯ノ如クシテ車輪狀ヲナスヤ否ヤ直チニ第一伍ト第三伍ト手ヲ聯鎖シ第二伍ト第四伍トモ亦同法ヲ行ヒテ行進スベシ而



第廿六圖

シテ車輪ノ運行ヲ速ヤカナラシメントスル片ハ「駈足」「進メ」ノ令ヲ下シ舊ノ歩調ニ復ヤシノントスル片ハ「早足」「進メ」ノ令ヲ下スベシ

第十四　投環（クオイツ）

此遊戯ニ要スル器具ハ「クオイツ」即チ鐵環及「ホツブ」即チ杭二本トス而シテ「クオイツ」ハ一面ヲ圓ク一面ヲ平タク製造シタル鐵環ニシテ其重量ハ演習者ノ力量ニ準ジテ差異アリト雖モ一對ノ平均量七百目乃至一貫目トス又杭ヲ打ツノ距離ヲ定ムルハ演習者ノ嗜好ニ任スト雖モ

大抵十間許ニ於テ地上ニ二三寸ヲ出シテ打ツベシ而シテ各演習者ハ杭ヨリ杭ニ向ツテ鐵環ヲ投ゲ正シク杭ノ上ニ環ヲ掛ケンヿヲ勉ムベシ而シテ其遊戯ノ度數ハ大抵十一回ヲ以テ定度トス

「クオイツ」ノ投ケ方ハ左ノ如クナルベシ

鐵環ノ平タキ面ヲ下ニシ食指ニ由リテ環ニ旋轉ノ作用ヲ與ヘ恰カモ紡績車ノ運轉スルカ如キ狀ヲ爲サシメ其落下スル片ハ環ノ平面ヲ下ニシテ落下スル如クナスベシ而シテ

第廿七圖



其投クルヿ巧ナルニ至レハ鐵環ハ空中ニ震動ヲナスヿナク且平タキ面ヲ投環者ノ方ニ向ケ四十五度ノ角ニテ地ヲ打ツベシ

環ヲ持チ及環ヲ投グルヿニ熟練セザレバ正當ノ遊戯ヲナスヿ能ハス又「ホツブ」ハ成的堅硬ノ木質ヲ用ユルヲ可トス若シ鐵ヲ以テ造ル片ハ鐵環ト觸ル、毎ニ鐵環ヲ損スルノ弊ヲ免レズ」

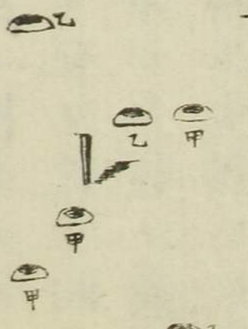
此遊戯ニ要スル場所ハ成的小石ナキ地ヲ選擇スベシ

鐵環ヲ投グルヿハ之ヲ紙上ニ付テ研究スレハ困難ナリト雖𪜈實地ニ教授ヲ受クル𪜈ハ甚シキ困難ノ業ニ非ストス然レ𪜈之ヲ熟練セザル間ハ環ハ地上ヲ打タズシテ廻轉スルヿアルベシ又甚シキハ全ク平タキ面ヲ上ニシテ地上ニ反ルベシ若シ平タキ面ヲ上ニシテ地上ニ反ヘルモノハ「死シタル環」トシテ得點ニ算入セラルヽヿナシ

此遊戯ハ二人或ハ二人以上ニテ演習スベシ尤二人以上ナル𪜈ハ敵味方ノ二組ニ區分スベシ」各演習者ハ杭ノ一方ニ於テ立チ他ノ杭ニ向ツテ各一様ノ環ノ數ヲ投クベシ而シテ杭ニ最モ近ク環ヲ投ゲタル組ハ得點ヲ得ベシ然レ𪜈是ハ必ズシモ一般ノ場合ニ非ザルヿアリ例ヘバ甲ニ屬スル環ハ第一番ニ杭ニ近ク乙ニ屬スル環ハ第二番ニ杭ニ近キ𪜈ハタトヒ甲ノ他ノ環ハ乙ノ他ノ環ヨリ杭ニ近シト雖𪜈得點一個ヲ得ルノミ如何トナレハ乙ノ第二ニ最モ杭ニ近

キ環ハ其後方ニアル都テノ環ヲ切殺スヲ以テナリ然レ𪜈若シ乙ノ第二ニ近キ環ナキ場合ニハ甲ノ環ハ各皆得點ヲ得ベシ斯ノ如クシテ各演習者ハ各其環ヲ投ゲ終リタルキハ皆杭ノ位地ニ行キ互ニ遊戯ノ摸様ヲ判斷シテ之ヲ記シ其地

第廿八圖



位ニ場所ヲ占メ再ヒ環ヲ投返シテ遊戯中之ヲ行フヘシ而シテ其點數ヲ定ムルハ「ポッブ」ニ最近キモノハ得點一個トシ杭ニ環ヲ掛ケタルモノハ二個ヲ得又甲組及乙組ノ最近ノ環ガ「ポッブ」ノ同距離ニアル片ハ互ニ勝敗ナシト雖𪜈甲ノ環二個ト乙ノ環一個ノ杭ニ最モ近キ同距離ニアルキハ甲組ニ一個ノ得點ヲ得ルモノトス而シテ遊戯終リテ雙方ノ得點ヲ計算シ其多少ニ由テ勝敗ヲ決ス

第十五　投球（ボールス）

此遊戯ハ數人ヲ以テ各人獨立シテ之ヲ演習シ或ハ敵ト味方トシ或ハ三組又ハ四組ニ分ツテ

之ヲ演習スベシ

此遊戯ヲ爲スニ方リテハ各演習者ハ各二個ノ球ヲ有シ特ニ第一番ニ球ヲ投グル者ハ「ジヤツク」ト稱スル小球ヲ持ツベシ而シテ其第一番ノ演習者即チ遊戯ヲ始ムルモノハ自分ノ隨意ニ距離ヲ量リテ芝原ニ「ジヤツク」ヲ投ゲ次ニ自身ノ球ヲ投グベシ而シテ他ノ演習者モ亦同位置ヨリ敵ト味方ト互ニ其順序ヲ追フテ各一個ヅヽ「ジヤツク」ニ向ツテ球ヲ投ゲ各投ゲ終リタル後之ヲ檢査シ「ジヤツク」ニ最モ近ク球ヲ投ゲタル演習者ハ球一個ニ付得點一個ヲ得ベシ而シテ若シ敵ト味方トヲ分ツテ遊戯スルキハ其他ノ球モ敵方ニ屬スル球ヨリ「ジヤツク」ニ近クアルモノハ總テ又一個ツヽノ得點ヲ得ベシ

一囘遊戯ヲ終リテ更ニ之ヲ演習スルキハ「ジヤツク」ニ最モ近ク球ヲ投ゲタルモノヨリ始ムベシ而シテ遊戯ノ囘數ハ十一囘ヲ以テ定度トスト雖モ演習者ノ多キ場合ニハ十五囘或ハ其他ノ奇數ヲ度トス

此遊戯ノ愉快ナルコハ他ノ球ヲ「ジヤツク」ヨリ

驅逐シ或ハ「ジヤックヲ」他ノ球ヨリ遠ザケ己ノ球ヲ「ジヤックヲ」ニ近ヅクルニアリ

此遊戯ニ使用スル球ハ樫或ハ他ノ堅キ木質ヲ以テ之ヲ製シ其大サハ直徑二寸五六分トス而シテ各二個ニ同號ノ數字ヲ彫ムベシ（「ジヤックヲ」即チ小球ハ演習者ノ見易カラン為メニ赤色ナルヲ可トス）

規則

第一款　總テ演習者ハ球ヲ投クルキニ方リ一足ヲ線内ニ置クベシ

第二款　球ヲ投グルニハ臂ヲ下方ニ伸シテ前後ニ動搖シ而シテ之ヲ投グベシ若シ手ヲ肩上ニシテ投ゲタルキハタトヒ「ジヤックヲ」ニ最モ近ク球ヲ投ゲタリトモ得點ヲ得ザルモノトス

第三款　敵ト味方ト各同數ノ球ヲ「ジヤックヲ」ニマデ最近ノ同距離ニ投ゲタルキハ勝敗ヲ決セズシテ更ニ之ヲ投ゲ試ムベシ然レ𪜈甲ノ球三個乙ノ球二個同距離ニアルキハ甲ヲ以テ勝利トス即チ甲ハ一個ノ得點ヲ得

第四款　第一回ノ勝者ハ次回ノ遊戯ニ於テハ

第一番ニ球ヲ投グベシ以下之ニ倣フ

第五款　「ジヤック」ガ其場所ヨリ打離サレタル片ハ終ニ休止シタル其地位ヨリ總テノ球ノ距離ヲ測定スベシ

第六款　投ケラレタル球ノ位置ヨリ三間以下ナル「ホップ」即チ投球ノ得點ヲ與フルモノトス片ハ反對者ニ一個ノ得點ヲ與フルモノトス

第七款　「ジヤック」ヲ打チタルモノハ二個ノ得點ヲ得ルモノトス

第十　トロコ

「トロコ」ハ「クリツケット」（球打）或ハ其他廣大ナル面積ヲ要スル遊戯ヲ爲スニ適當ナル土地ニ乏シキ所ニ於テハ最モ便宜ナル戸外遊戯トス而シテ之ヲ爲スニハ始メ田轉スベキ鐵環ヲ地中ニ挿入シ演習者ハ各自ニ有スル所ノ長キ棒ヲ先頭ニ附シタル輪即チ七

第廿九圖



ヲ以テ各ノ球ヲシテ其鐵環ヲ通過セシムルヲ以テ其目的トス

左ニ列擧スル規則ハ必ラズ嚴重ニ遵守スヘキモノトス

演習規則

第一款　此遊戲ハ二人或ハ二人以上ニテ其敵ト味方トヲ分チテ演習スベシ

第二款　遊戲ノ度數ハ十一回若クハ十五回若クハ廿一回ヲ常度トス

第三款　各演習者ハ初メテ球ヲ投グルキハ其順序ヲ要セズト雖モ第二回ヨリハ其球ノ鐵環ニ向ツテノ遠近ニ由リテ其順序ヲ定ムベシ但其始メテ投グル一回ハ演習ノ順序ヲ定メン爲メニ投ルモノナルガ故ニ前款ニ示セル度數ニ算入セザルモノトス

第四款　各演習者ノ目的ハ其有スル球ヲシテ鐵環ヲ通過セシメンガ爲メニ其棒ヲ以テ球ヲ投グルニアリ故ニ其球ヲシテ能ク環ヲ通過セシムルヤハ其演習者ハ一個ノ得點ヲ得ルモノトス

第五款　「カノン」ヲ爲シタル演習者ハ二個ノ得點ヲ得ベシ但其「カノン」ヲ爲ストハ球ヲシテ環ヲ通過セシムルニ方リ其未ダ環ヲ通過セザルニ先ヅ他ノ球ヲ打チ然ル後其環ヲ通過セシメタルヲ云フ然レ𪜈相互ノ球ノ距離ニシテ投球棒ノ長サニ達セザル𪜈ハ「カノン」ノ正シキモノト見做ス可ラス故ニ唯一個ノ得點ヲ得ルニ止ルベシ

第六款　一演習者アリ其球ヲシテ環ヲ通過セシムル目的ヲ以テ之ヲ投グルニ方リ敵ノ球ヲ突キ爲メニ却テ敵ノ球ヲ通過セシメタル𪜈ハ敵ニ一個ノ得點ヲ得セシムルモノトス

第七款　其球ヲ投グルニ方リ若シ其棒ヲ鐵環ニ觸レシムル𪜈ハ縱令其球ハ鐵環ヲ通過スルモ之ヲ不正ノモノト見做シ一個ノ得點ヲ得セシメザルモノトス

第八款　各演習者ハ其球ヲ投グル時ハ其前足ヲ球ト一直線ノ位置ニ保チ且之ヲ動カスヿナクシテ球ヲ投ケサル可ラズ

以上ノ方法ニ由リテ得タル點數ノ多キ方

ヲ以テ勝利トス

第十七　フートボール（蹴鞠ノ一種）

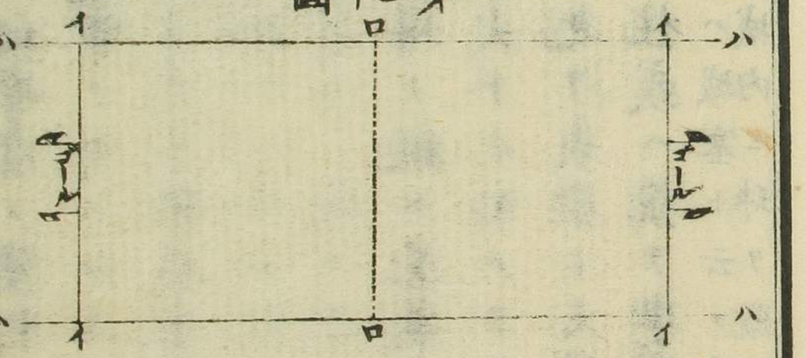
此遊戯ハ甚タ活潑ナルモノニシテ演習者ヲ各同數ノ二組ニ分チテ敵ト味方トシ以テ演習スベキモノトス而シテ競争遊戯ニ於テハ各組十一人ヲ以テ正數ト定ムト雖モ演習者ハ隨意ニ之ヲ増加スベシ且各組首領一人ヲ撰ヒテ之カ指揮ヲ受ルモノトス

此遊戯用ニ供スル鞠ハ護謨ヲ以テ造リ之ヲ掩フニ柔皮ヲ以テシタル大ナルモノヲ最上トス」

此遊戯ニ於テ各組ノ目的ハ其鞠ヲ敵陣即チ敵ノ「ゴール」中ニ蹴リ込マンヿヲ勉メ且己レノ「ゴール」中ニ蹴リ込マルヽヲ防クニアリ故ニ其「ゴール」中ニ蹴リ込マレタル組ヲ以テ敗者トス

今第三十圖ニ「フート

第三十圖



「イイ」ハ「ゴール」線ハ「ロロ」中央線ハ「ハハ」境線ナリシテ遊戯ヲ始ムルハ常ニコノ中央線ヨリ鞠ヲ蹴リ出スモノトス

ボール」場ノ位置ヲ示シ初學者ノ便利ニ供ス該圖ニ記スルモノハ其通常ノモノトス又其「フートボール」場ハ成的平坦ニシテ砂石ナキ芝原ヲ以テ最上トス

規則

第一條 「フートボール」場ノ縱ハ其最大ナルモノヲ百間トシ横ノ最大ナルモノヲ五十間トシ其區域ハ旗ヲ以テ之ヲ表示シ又其「ゴール」ハ各五間ノ距離ニ木柱或ハ旗ヲ建置シテ之ヲ表示スベシ（「ゴール」ハ城塞ト云フ義ナリ故ニ我カ城内ニ球ヲ蹴リ込レタル組ヲ敗北トス）

第二條 或方法ヲ以テ兩方ノ間ニ勝敗ヲ決シ勝者ハ其「ゴール」（或ハ東或ハ西等）ヲ撰フノ權ヲ有シ而シテ遊戯ハ敗者ヨリ之ヲ始ムベシ但球ヲ蹴リ出スハ場ノ中央ヨリ蹴リ出スベク又蹴リ出ス前ハ敵方ノ演習者ハ球ヲ距ル五間内ニ近ク可ラス（遊戯ヲ始ムル前ニ演習ノ時限ヲ定ムベシ）

第三條 一勝敗ノ後ハ亦敗者ヨリ遊戯ヲ始ムベシ但「ゴール」ヲ交換ス

第四條 球ヲ打チ或ハ投ケ或ハ運フヿノ方法

ニ由ラズシテ之ヲ敵ノ「ゴール」柱間ヲ通過セシメタルヿハ其「ゴール」ヲ得タルモノト即チ勝利者トス但高サハ之ヲ制限セズ（又演習中誤リテ己レノ「ゴール」柱間ニ鞠ヲ蹴リ込ミ或ハ打チ込ミタル組ヲ敗北トス）

第五條　球ノ境線或ハ線外ニ蹴リ出サレタルヿハ最初ニ其球ニ觸レタルモノハ球ノ出デタル線上ヨリ球ヲ境線ト直角ヲナス如クニ之ヲ投クベシ而シテ其球ノ一タビ地ニ達セザル間ハ球ニ觸ルヽヿヲ得ズ

第六條　一演習者アリ球ヲ蹴タルヿハ敵ノ「ゴール」線ニ近接セル所ノ其味方ハ敵ノ「ゴール」線ト味方トノ間ニ三人以上ノ敵アルニ非ザレハ皆遊戯外ニ屬スルヲ以テ其球ハ一タビ敵ニ蹴ラレタル後ニ非サル以上ハ自ラ其球ニ觸ルヿヲ得ズ又敵ノ球ニ觸ルヽヲ妨グルヿヲ得ズ

第七條　球ノ「ゴール」線ノ後ニ行キタル場合ニアリテハ其「ゴール」ニ屬スル演習者ニテ「ゴール」線三間以内ヨリ自由ニ蹴リ出スヿヲ得ベシ但敵手ハ球ノ三間内ニ近クベカラス

第八條 「フエヤケアツチ」ヲナシタル者ハ他人ノ妨ケヲ受ルコトナク其場所ヨリ自由ニ球ヲ蹴ルコトヲ得ベシ（体）「フエヤケアツチ」トハ敵ノ身体或ハ打チ或ハ投ケタル球ニ觸レル後又ハ敵ノ蹴リ或ハ味方ノ身体ニ觸タル球ニシテ地上ニ落チ然レ圧境線或ハ「コールド」線内ヨリ來タル片ハ「フエヤケアツチ」トナサズ）

第九條 演習者ハ凡テ手ニテ球ヲ運ビ或ハ投ケ或ハ飛ブ所ノ球ヲ受取ル乎又ハ演習者膝上ニ一回跳上リタル球ヲ受取リタル演習者ノ手ヨリ之ヲ打落ス可ラス

第十條 演習者ハ互ニ蹴リ又ハ脚ヲ以テ倒ス可ラズ且敵ヲ丈ヘンガ爲メニ手ヲ用フ可ラズ

第十一條 演習者ハ球ヲ投ゲ或ハ手ヲ以テ之ヲ他ニ通過セシム可ラズ但手ヲ以テ球ヲ止ムルハコノ限ニ非ラズ

第十二條 演習者ハ演習中ハ如何ナル事情アルモ地上ヨリ球ヲ手ニテ取リ上グルコトヲ爲ス可ラズ

第十三 循環球（クロッケー）

此遊戯ハ戸外遊戯ノ最良ナル地位ヲ占メ殊ニ

男女相俱ニ遊戯シ得ベキ便利ヲ保有スルモノトス

此遊戯ノ目的ハ二人以上ノ演習者アリテ地上ニ數個ノ鐵輪ヲ据ヱ置キ槌ヲ以テ球ヲ打チ之ヲ通過セシムルニ在リ

演習者ハ「スターチング、ペッグ」(演習ヲ始ムル場所ヲ示ス柱)ヨリ僅カノ距離ニ其球ヲ置キ第一ノ輪ニ向ツテ之ヲ打ツベシ若シ第一ノ輪ヲ通過セシメタル片ハ直チニ第二ノ輪ニ向ツテ之ヲ打チ順次斯ノ如クシテ若シ打チ誤マルキハ再度打ツノ權利ヲ失フモノトス而シテ第二ノ演習者モ亦同ジ方法ヲ以テ球ヲ打チ若シ之ヲ打誤マルキハ直チニ第三ノ者之ニ代リテ演習ス斯ノ如クシテ他ノ演習者モ同ジ方法ニテ順次ニ進ミ而シテ其中最モ速ヤカニ鐵輪ノ全數ヲ通過セシメタル後「スターチング、ペッグ」ヲ打チタル者ヲ勝利者トス又二人以上ニテ之ヲ演習スルキハ常ニ其組ヲ敵ト味方ニ分チ其第一ニ輪ヲ循環セシメ終リタル組ヲ勝利トス

各演習者ハ相互ニ區別セン爲メニ各異ノ色ヲ

附シタル槌及球（一人ノ槌ト球トハ同色ヲ用フ）ヲ有スベシ而シテ各演習者ノ目的ハ己レノ球ヲシテ輪ヲ通過セシメントスルノミナラズ敵ノ輪ヲ通過セシムルヲ妨礙スルニ在リ而シテ之ヲ爲スノ方法ハ先ツ己レノ球ヲ以テ他ノ球ヲ打ツベシ若シ斯ノ如クニシテ球ヲ打チタルキハ己レノ球ヲ他ノ球ニ付ケテ某距離ニ打飛バスベシ即チ己レノ槌ヲ以テ直接ニ敵ノ球ヲ打タザルモ己レノ球ヲ打チタル力ヲ敵ノ球ニ傳ヘ以テ敵ノ球ヲ打飛バスナリ（球ヲ打飛ハス時ハ圖中ニ示セル如ク己レノ足ヲ己レノ球ノ上ニ置クモノトス）演習者ハ己レノ球ヲ以テ順次ニ他人ノ球ヲ打チ得ベシ（混雜ヲ防ガンガ爲メニ各演習者ハ其球ニ等シキ色ヲ付シタル標ノヲ持チ之ヲ次ニ置クヲ以テ故ニ輪ハ遊戯ノ情況ニヨリテ一枚以上ノ札ヲ有スルヿアルベシ）



演習者ハ己ニ前ニ記セル如ク球ヲ打チ誤ラザル間ハ順次ニ進ムヿヲ得ベシ然レ𪜈若シ打誤リタル𪜈ハ直チニ他ノ演習者之ニ代ルベシ

以上記セル方法ハ簡單ニシテ理會スルニ容易ナルベシ蓋シ其一々タビ「クロッケー」ヲ爲セシ人ニ在リテハ精密ナル記錄ヨリハ寧ロ明瞭ナルベシ然レ𪜈予ハ又他ノ教ヲ假ラズシテ之ヲ爲サントスル人ノ爲メニハ或ハ理會ニ苦シムモノアランヲ恐レ即チ左ニ其方法ヲ記述ス

遊戯場并ニ輪ノ排列法

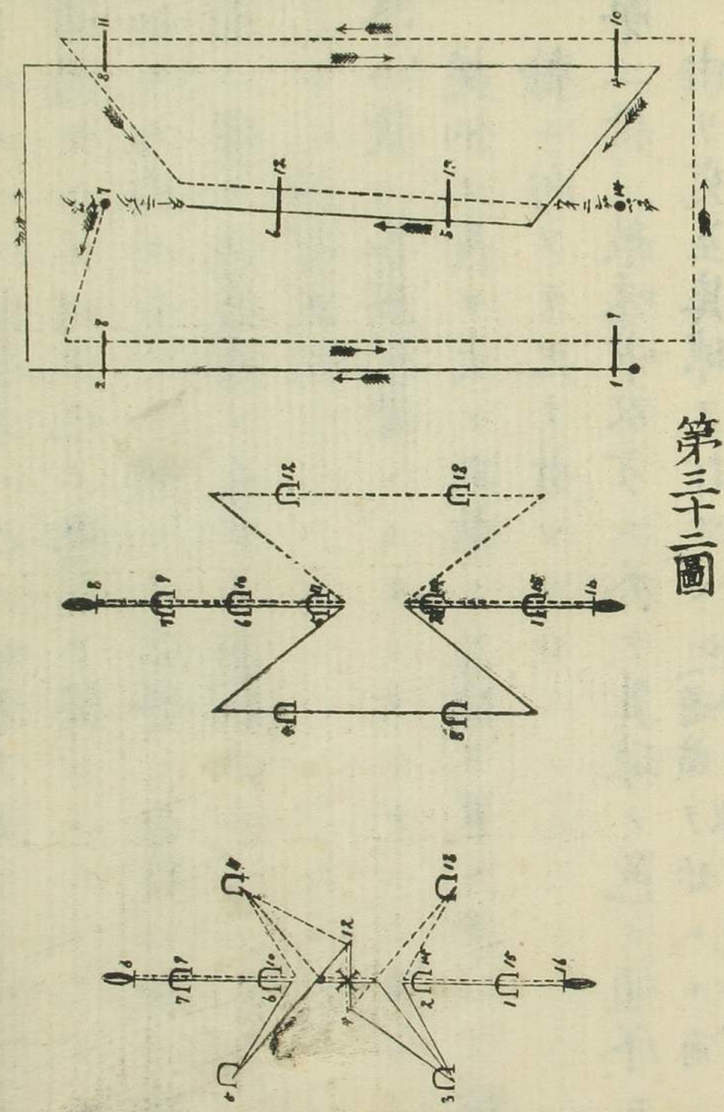
此遊戯場ハ平常五間以上ノ方形ニシテ且平坦ナル芝原或ハ平野ヲ以テ足レリトス

輪ノ排列法ハ一定セスト雖𪜈次ニ記セル三法ハ最モ通常ノモノトス而シテ數字ノ順序ハ「ターチングヘッグ」ヨリ「ターニング、ペッグ」(歸所ノ杭)ヲ廻リ再ビ歸ル所ノ方向ヲ示ス

各輪ノ距離ハ一樣ナルベシ而シテ其距離ハ場所ノ廣狹ニ關スルト雖モ六尺乃至一丈ヲ以テ通常トス

圖中ノ實線ハ其進路ヲ顯ハレ虛線ハ其歸路ヲ顯ハス而シテ通常九個ノ輪ヲ要スルモノナリト雖𪜈時トシテハ十個或ハ六個ヲ用フルコアリ即チ第三十二圖ニ於クル如シ然レ𪜈輪ハ如

何ナル排列法ニ由ルト雖モ球ヲシテ「スターチング、ペッグ」ヨリ「ターニング、ペッグ」ニ至ルマテ及「ターニング、ペッグ」ヲ廻リ「スターチング、ペッグ」ニ歸ルマデ順次ニ各ノ輪ヲ通過セシムルノ方法ニ至テハ曾テ差異ナカルベシ蓋シ各ノ演習者ハ遊戯ノ正シキ順序ヲ以テ己ノ味方ヲ相助ケ敵ヲ相妨グルヰハ自ラ其間ニ競争心ヲ發シ大ヒニ此遊戯ヲ活潑愉快ナラシムルモノナリ例ヘバ一ノ演習者カ殆ント「スターチング、ペッグ」ニ達セントスルヰニ方リ之ヲ或距離ニ打飛



第三十二圖

シ或ハ一ノ演習者ハ己ノ味方ヲ助ケテ其球ヲ通過セシメ以テ己ノ勝利ヲ得ントスルヿアル如キニ由リテナリ然レ𪜈是等ノ遊戯ハ殊ニ地面ノ廣キ遊戯場ニ在リテ愉快ナルモノトス

演習規則

第一款　各演習者ハ「スターチング、ペッグ」ヨリ槌柄ノ長サ丈ノ距離ニ其球ヲ置キ第一ノ鐵輪ニ向ツテ之ヲ打ツベシ

第二款　敵味方双方ニ於テ其球ノ色ノ順序ニ由リ交互其球ヲ打ツベシ（遊戯ヲ始ムル前ニ於テ球ノ色ト「スターチング、ペッグ」ノ輪ノ色トヲ比較シ以テ演習者ノ順序ヲ定ム）

第三款　各演習者ハ球ヲシテ輪ヲ通過セシメ得ザリシカ又ハ他ノ球ヲ打チ飛バス場合ニ在リテ己ノ球ヲ足ヨリ外ス時ニ至ルマデハ球ヲ打ツヿヲ得ベシ若シ球ヲ打ツヿヲ止メザルヲ得ザル場合ニ至ル𪜈ハ其演習者ノ球ハ直チニ其場所ニ止メラルヽモノトス（一輪ヲ通過セシムルモノハ尚一度球ヲ打ツヿノ權利ヲ有シ一時ニ二輪ヲ通過セシメシ者ハ連續シテ二度打ツヿノ權利ヲ有シ又他人ノ球ヲ打ツタル𪜈モ同シク二度打ツヿノ權利ヲ有ス即チ他ノ球ヲ打チ飛バシタル後尚一度打ツヿヲ得）

第四款　他ノ球ヲ打チタル演習者ハ其球ヲ打飛バスコヲ得ベシ（他ノ球ヲ打チタル時ハ其ケ己ノ足ヲ己ノ球上ニ置キ己ノ球ヲ打チテ他ノ球ヲ打飛バスベシ且之ヲ打飛バスコニ於テハ如何ニ力ヲ用フルモ又ハ如何ナル方向ヲ取ルトモ演習者ノ隨意タルベシ）

第五款　他ノ球ヲ打飛サントシ誤テ己ノ球ヲ足ヨリ放ス乎或ハ他人ノ球ノ位置ヲ變ザル時ハ再ヒ己ノ球ヲ打ツノ權利ヲ失フモノトス又打チタル球ヲ其位置ニ殘サントセバ唯之ヲ動カス丈己ノ球ヲ輕ク接シ置キテ己ノ球ヲ打チ放スベシ若シ他人ノ球ノ位置ヲ變ルトキハ再度打ツノ權利ヲ失フモノトス

第六款　第一ノ輪ヲ通過スル前ニ在テハ他ノ球ヲ打ツコヲ得ズ又他ノ球ヨリ打タルヽコヲ得ズ（球ヲシテ第一ノ輪ヲ通過セシメザル演習者ハ未ダ遊戲ニ入ラザルモノト認ム）

第七款　第一ノ輪ヲ通過セシムルトキニ若シ打誤リタルモノハ其球ヲ取上ゲ再ビ己ノ順番ニ至ルヲ俟チテ其球ヲ打ツベシ

第八款　各演習者ハ數個ノ球ヲ引續キテ打ツコヲ得ベシ然レトモ己レノ球ヲシテ其次ノ鐵

輪ヲ通過セシメサル場合ニ於テハ同順番中
再ビ同一ノ球ヲ打ツコトヲ得ズ

第九款　各演習者ハ輪又ハ他ノ球ニ向ツテ己
ノ球ヲ打タズシテ場所ノ或部分ニ之ヲ打ツ
コトヲ得ベシ

第十款　循環ヲ終リタル演習者（即チ「スタートチ
リ「ターニング、ペッグ」ヨ
ターチング、ペッグ」ニ歸リタルモノ）ハ己レノ
球ヲ以テ「スタートチング、ペッグ」ヲ打チテ遊戯
ヲ退クカ或ハ暫時其「ペッグ」ヲ打ツコトヲ止メ
テ「ローヴアル」者（漂泊トナルコトヲ得ベシ而シテ

其漂泊者ハ其順番中總テノ球ヲ打ツノ權
利ヲ有ス然レドモ其順序ハ前ノ法ニ由ルハ勿
論タルベシ（漂泊者ハ敵ノ球ヲ打チ飛バシ味方ノ球ヲ「スタートチング、ペッグ」ノ方ニ打ツニ就テ其ノ大ナル裨益トナルコトアルベシ）

第十一款　他ノ球ヲ打タル球ハ之ヲ死シタル球
ト稱シ而シテ其打タル球ヲ打飛ハサバルマ
デハ正シキ遊戯中ノ球ト見做サズ即チ手中
ニアルモノトス故ニ演習者ハ己ノ球ヲ以テ
他ノ球ヲ打チ而シテ己ノ球ハ輪ヲ通過スト
雖モ打タレタル球ヲ打飛ハサン爲メニ歸ラ

ザル可ラズ故ニ輪ヲ通過セシモノト見做ナズ之ニ同ジク若シ演習者己ノ球ヲ以テ他ノ球ヲ打チ爲メニ己ノ球ハ跳歸リ杭ヲ打ツト雖ヒ之ヲ球ヲ打テリト云フベク杭ヲ打チタル者ト見做ス可ラズ然レヒ己ノ球ヲ以テ同時ニ二個ノ球ヲ打タルトキハ第一ニ甲球ヲ打チ飛ス乎又ハ乙球ヲ打チ飛ストモ其演習者ノ適宜ニ任スモノトス

第十二款　球ハ打タルベクシテ押サル可ラズ（之ヲ再説スレバ單ニ槌ヲ前ニ推進ムルヿヲ以テ正シキ打方ト為サス其音ヲ聞キ得ベキヲ以テ正シキ打方トス蓋シ正シキ打方ヲ為スニハ槌ヲ球ノ後方ニ退クベシ然レヒ槌ノ頭ヲ地上ニ置キ不意ニ之ヲ進ムルハ敢テ妨ケナシ）

第十三款　球ハ槌ノ面ヲ以テ打ノベシ其側或ハ柄ヲ以テ打ツ可ラズ

第十四款　演習者ハ其球ヲ打ツ方法ニ於テ正シキ間ハ如何ナル身裝ヲ為スモ妨ゲナシ

第十五款　循環ヲ終リタル演習者ハ己ノ球ヲ打ツニ己ノ槌ヲ以テスルト敵ノ爲メニ打タルヽトニ拘ハラズ一旦「スタートチング、ペッグ」ニ當タリタルトキハ遊戯ヲ退ゾカザル可ラズ（第十

款ヲ看ヨ

第十六款　鐵標ハ演習者ノ次ニ通過セシメントスル鐵輪上ニ置クベシ但一面ヲ「スターチング、ペッグ」ニ向ケ一面ヲ「ターニング、ペッグ」ニ向ケ置クベシ（鉄標ヲ置換或ハ掛換スル等ハ判者ノ職務ト為スト雖モ若シ判者ヲ欠クトキハ某演習者ヲ以テ之ニ代フルヿヲ得）

第十七款　球ヲ打ツトキニ其鐵輪ニ接近スルモ其果シテ通過セシヤ否ヤヲ判斷スルニハ鐵輪ノ上方ヨリ槌ノ柄ヲ下シ其柄ノ球ニ觸ルヽヤ否ヤヲ試ミ若シ柄ニ觸ルヽナキトキハ通過セシモノト認ムベシ而シテ之ヲ判斷スルハ判者ノ職務ニ屬ス

第十八款　若シ演習者ニシテ其球ヲ「ターニング、ペッグ」ニ當テ其付着シタルトキハ再ビ順番ノ至ルマデハ其球ヲ打ツヿヲ得ズ又「ターニング、ペッグ」ニ付シタル打ハ算入スルヿヲ得ズ（之ヲ打放シタルトキモ前ノ如クニシテ再ヒ其順番ノ至レルトキ球ノ止マリタル場所ヨリ始ムベシ）

第十九款　第一ニ循環ヲ終リタル組ヲ勝利トス

第二十款　判者ノ決定ヲ以テ終審トス若シ判者

ヲ欠クキハ傍觀人過半ノ説ヲ以テ之ヲ決定セレムルヿヲ得（然レ𪜈成的判者ヲ置クヲ要ス）法則ニ適スルヤ否ヤヲ審査スルヿ、打タレタル球ヲ試驗スルヿ、掛リタル球ヲ元ノ位置ニ復スルヿ、不意ノ混雜ニ由リテ打タレタル球ヲ取扱フヿ、演習ノ始メノ順序ヲ定ムルヿ等是ナリ）

循環球用器具

循環球ニ要用ナル器具左ノ如シ

一杭　二本（「スターチング」又「ターニング」、「ペッグ」）
一木槌　八本
一木球　八個
一鐵輪　十個
一票　八個
一「ペッグ」ハ長サ二尺乃至二尺五寸直徑凡一寸ニシテ各演習者ノ順序ヲ定ムルノ便ニ供センガ爲メニ其周圍一球ノ色ヲ輪狀ト同ジキ各種（八種）ノ色ヲ輪狀ニ附シタルモノナリ



第世三圖

一木槌ノ長短輕重及其形狀ハ各種ニシテ一定ノ制ナシト雖モ其最モ適當ナル長サハ演習者ノ身長ニ應シテ大凡三尺乃至三尺五寸ノ

第三十四圖



間ニ於テ折衷斟酌シテ之ヲ製作スルモノトス而シテ其柄ハ槌ノ頭ニ螺旋ヲ以テ扭入スベク釘ヲ以テ打チ込ム可ラズ且其柄ニハ球ト同種ノ色ヲ輪ノ形狀ノ如ク附シ以テ各演習者ノ順序ヲ知ル便ニ供ス

一球ハ直徑三寸乃至三寸五分ニシテ欅又ハ栗ヲ以テ製シ其色ヲ赤、緑、青、黄、黒、白、桃、樺ノ八種トス而シテ球ノ色即チ輪色ハ演習者ノ演習順序ヲ示スモノナリ（芝原ニ於テ演習スルトキハ球ノ彩色ヲ滅却スルノ患ナシト雖モ土地ニ於テ之ヲ演習スルトキハ屢其色ヲ滅スルヿアルカ故ニ其球ニ赤或ハ緑等ノ字形或ハ一二三等ノ數字ヲ彫刻スルモ亦可ナリトス）

一鐵輪ハ鐵ノ剛強ナル針金（ハリガネ）ヲ以テ之ヲ製シ其數ハ六個若クハ九個若クハ十個ナルベシ而シテ其上部ハ圓形或ハ方形ナルモ敢テ妨ゲナシ

第十九　ローンテニス

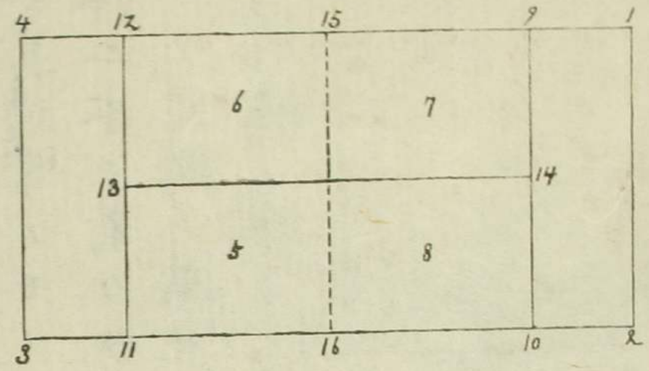
第三十五圖



「ローンテニス」ハ男女老幼巧拙ノ如何ヲ問ハス之ヲ演習シ得ルノ遊戯ナリ今其方法ヲ叙スル前ニ「コート」即チ遊戯場ノ摸様ヲ略説センニ「コート」ノ大サハ素ヨリ實際ニ付テ廣狹ヲ定ムヘキモノニシテ一様ニ規定スル「能ハザレ𪜈

今其通常ノモノヲ擧グレハ大凡五尺ノ高サノ棒二本ニ着ケタル網ヲ以テ「コート」ヲ等分ス而シテ其網ノ高サハ三尺以上四尺以下ナルベク且其棒ト棒トノ距離即チ網ノ長サハ四間半ヲ以テ最モ便宜ノモノトス又網ノ兩側ニ於テ網ヲ離ルヽ三丈九尺ノ所ニ長サ二丈七尺ノ一線（ベース ライン）ヲ引キ其兩端ヨリ亦一線（側線）ヲ畫シ又網ヨリ二丈六尺ノ所ニ横ニ「サルヴィスライン」ヲ畫シ而シテ又網ノ中心ヲ通ジテ各「サルヴィスライン」ニマテ一線ヲ引クベシ即チ左圖ニ示ガ如シ

第三十六圖



(1)線長(1)線長(9)線其(12)(16)二(4)(10)一網ノ丈ヨヨ丈ヨヨ長ヲヨサヲヨサヲヨ高三リリ六リリサ「サ」リヲ「ベ」リヲ「ザ」リサ尺(2)(12)尺(10)(15)ヲル(10)各イ(2)各イ(4)、ハトニ(9)トニ(15)各ヾ(11)ニス(3)七ヅ(2)三ス至ヨス至ヨ二スヨ丈ラヨ丈ラヨ尺ルリ ルリ丈ラリ七イリ八イリ以ノ(1) ノ(9)七イ(12)尺」ン(4)尺」ン(3)ニ上長(3) 長(11)尺」ンニトトニトトニナサヨ サヨトト至ス云至ス云至ルヨリ ヨリス云ル ヒル ヒル ベ各(11)、各(16)、ヒノ 其ノ 其ノ

各演習者ハ網ノ各側ノ「コート」ヲ充タシ而シテ「サルブ」(「サルブ」ノ前ニ「テ」トハ第一ニ球ヲ打チ出ス「テ」ヲ云フ)ニ「スルヤハ手ヲ以テ球ヲ打チ投ケ其落チ來ル所ヲ打ツベシ)即チ第一ニ球ヲ打ツ所ノ遊戯者ハ敵方ニテ用意整ハザル間ハ球ヲ打ツヿ能ハズ然レ共敵ガ其球ヲ受ケ又ハ打返サントスルヤハ其「サルヴィス」ヲ正當ノモノト見做スベシ又「サルブ」スル時ニ方リテハ一足ヲ「ベースライン」外ニ置キ而シテ左右交互ノ「コート」ヨリ「サルブ」スベシ「サルブ」スルヤハ其球ハ「サルブ」ヲナセル筋違ナル「コート」(1)リ(5)ヨノ「サルヴィスライン」以内

ニ落ツル如ク之ヲ打ツベシ而シテ「サルヴィス」即チ「サルブ」サレタル球ハ必ス第一「バウント」ニテ之ヲ打返スベシト雖モ其後ノ球ハ飛ナカラ或ハ第一「バウンド」ニテ打返シ得ベシ若シ其「サルブ」サレタル球ニシテ不正ノ「コート」或ハ網ノ前又ハ「サルヴィスライン」以外ニ落チタルキハ之ヲ「フオルト」失過ト稱シ再ビ同「コート」ヨリ「サルブ」セシムベシ然レモ敵方ニテ已ニ其球ヲ取リ又ハ打返サントセシキハ其ノ「サルヴィス」ヲ正當ノモノトス故ニ其評點法ハ敵ガ「サルヴィス」又ハ其後

ノ打ヲ返シ得ザルキ又ハ球ヲ「コート」ノ外ニ打チ出スキハ一點ヲ得ルモノトス而シテ「サルブ」スル演習者ガ引續キテ二個ノ「フオルト」ヲナセシキ或ハ遊戯中ノ球ヲ打返シ得ザルキハ敵ニ一點ヲ得セシムルモノトス又孰レノ演習者ニテモ遊戯中ノ球ヲ手或ハ體ノ或部分ニ觸レシムルキ或ハ球ヲ二回打ツキハ一點ヲ失フモノトス

又四人ニテ之ヲ演習スルキハ甲乙ヲ一組トシ丙丁ノ二人ヲ一組トス今假リニ甲乙ノ組ヨリ

遊戯ヲ始ムルモノトシ即チ甲ハ(1)ヨリ(5)ニサ「ルブ」スベシ而シテ第二回ニハ(2)ヨリ(6)ニサ「ブ」ヲナシ斯ノ如クシテ一「ゲーム」ノ結局ニ至ルマテ交互ノコト「コート」ヨリサ「ルブ」スベシ次ニ丙ハ(3)ヨリ(7)ニサ「ルブ」シ次ニ乙次ニ丁ト順次ニサ「ルブ」ヲナスベシ

一「ゲーム」(勝)ノ點數ハ演習者ノ隨意ニ定ムルモノトス今假ニ四點ヲ以テ定點トシ遊戯スルモノトスルキハ第一ニ其定點ニ達シタル者ヲ勝利即チ「ゲーム」トス然シ乍ラ双方三點ニ至リタルキ之ヲ「デユース」ト云フ「デユース」ヲ得ンニハ「バンテージ」(利益)ト稱スルモノヲ加フル故續ヒテ二點ヲ得ザレバ「ゲーム」(勝利)ヲ得ル「能ハズ即チ双方四點ナルキハ又之ヲ「デユース」ト云ヒ「デユース」トナリタルキハ常ニ引續キテ二點ヲ得ザレバ「ゲーム」トナルコヲ得ス而シテ通常六「ゲーム」ヲ以テ「セツト」トナス演習者適宜ニ之ヲ定ムベシ尤モ「ゲーム」トナルモノハ常ニ敵ヨリ二點ノ超過ヲ得ザル可ラス故ニ其定點ヲ四點トスルキハ敵ノ三點ヲ得ル

前ニ四點ヲ得ザル可ラズサレバ「ゲーム」ハ勝敗ノ一段落ニシテ「セツト」ハ其結局ノ勝負ナリ而シテ「サルブ」ヲナスキハ其定マリタル「コート」ニ居ラザル可ラズト雖其後ハ各自ノ適意ノ所ニ位置ヲ占ムベシ而シテ「サルブ」ヲナスハ右ヨリ始メ交互ノ「コート」ヨリスルモノトス但一ノ「オルト」ヲナシタルキハ同「コート」ヨリ「サルブ」スベシト雖モ二度續キテ「フオルト」ヲナシタルキハ他ノ「コート」ヨリ「サルブ」スルモノトス（二度續キテ「オルト」ヲナシタキハ敵ニ一個ノ得点ヲ得セシム）

第十　ベースボール（打球ノ一種）

「ベースボール」ハ健康ト愉快トヲ享有スルニ最モ適當ナル戸外遊戯ニシテ競争心ヲ鼓舞スルノ性質ヲ含有スルモノトス而シテ此遊戯ノ最モ超絶スルハ幼年若クハ少年壯年ヲ通ジテ之ヲ演習スルニアリ且ヤ通常ノ遊戯ヲ考察スルニ其快樂ト危險ト相併行セザルモノ殆ンド之ナシト云フモ可ナラン試ミニ見ヨ玉突ノ遊戯ハ大ヒニ人ヲシテ快樂ヲ感セシムルト雖モ其周圍ニ羅列スル火酒ハ能ク人ヲシテ誘惑

セレムルノ危險アルニ非ズヤ加之其遊戯場ノ繁雑混亂ナルヤ以テ空氣ヲ汚濁シ其健康ヲ害スルアルニ非ズヤ然ラバ玉突ノ遊戯タル其性質ニ於テハ或ハ害ナレトスルモ之ヲ實施スルニ方リテ多少ノ妨害ヲ受クル斯ノ如キモノアリ其他ノ遊戯ニ於テモ一得一失ハ其數ナルカ如シ然ルニ「ベースボール」ハ其人ヲシテ健康ト愉快トヲ得セシムルハ他ノ遊戯ニ比シテ過グルアルモ及バザルナシ而シテ未タ曾テ一點ノ害ナシト云フモ敢テ溢美ニ非ザルベシ故ニ

一タヒ此遊戯ノ法則ヲ了知スルヤハ「ベースボール」ヲ好マザルナシ唯ニ之ナキノミナラス之ヲ好ンテ寢食ヲ忘ルヽモノアリ其遊戯ノ能ク人體ニ適恰セル固ヨリ知ルベキノミ殊ニ之ヲ北米合衆國ノ現況ニ徴スルニ全國到ルトコロ都府ト村落トヲ問ハス皆ナ「ベースボール」會社ヲ設ケ男子壯幼此ニ從事セザルモノナク苟クモ戸外遊戯ノ方法ヲ知ラン乎先ツ「ベースボール」ノ規則ヲ知ラザル者ナク已ニ之ヲ知ル又之ヲ好マザルモノナリト云フ盛ンナリト又盛ンナリト云フベシ

今「ベースボール」ニ關スル方法等ヲ左ニ記述ス

一　此遊戯ヲナサントスルキハ左ニ掲クル位置ヲ充サン爲ニ九名ノ演習者ヲ要用トス

第一　ケツチヤル
第二　ピツチヤル
第三　レヨルトストツプ
第四　フオルストベース
第五　セコンドベース
第六　ソルドベース
第七　レフトフィールド
第八　センタルフィールド
第九　ライトフィールド

但修熟ノ爲メニ之ヲ演習スルキハ敢テ人員ノ多寡ヲ論ゼズト雖モ若シ正式ニ之ヲ行フキハ必ラズ敵ト味方トノ各々九人ヲ以テ其正數トス

第一　ケツチヤル（投球者）　此位置ヲ占ムル演習者ハ「ピツチヤル」ヨリ「ホームベース」ニ向ッテ投グル球ヲ取リテ其進行ヲ停止スルモノトス又凡テ「フアウルボール」ヲ取リ或ハ精密ト迅速ヲ

以テ其球ヲ各ノ「ベース」ニ投クベシ（時宜ニ由リ第一「ベース」或ハ第二「ベース」ニ投グルモノトス）

打球者ノ第一「ベース」ニアル時「ケツチヤル」ノ位置ハ「ホームベース」ニ近接シテ「ピツチヤル」ヨリ投ケラレ球ヲ「バウンド」（跳上）シテ之ヲ取リ速ヤカニ第二「ベース」ニ投ゲテ第一「ベース」ヨリ第二「ベース」ニ走ル所ノ演習者ヲ驅逐シ又敵ノ第三「ベース」ニアルキハ「ホームベース」ニ接近シテ球ヲ「ピツチヤル」ニ投ゲ返シ又他ノ「ベース」ニ注目スベシ

第二　ピツチヤル（投球者）

「ピツチヤル」ノ位置ハ其球ヲ「ホームベース」ニ投グル時ハ同「ベース」ヨリ其相距ル七間三尺ニシテ且直線ヲ爲スベシ又之ヲ投グル時ハ其兩足ハ地上ヲ踏ムヲ要ス其球ヲ「ホームベース」ニ向ツテ投グルキハ臂ヲ下ニ垂レ後部ヨリ運ビテ球ヲ投グベシ又可及的球ヲ「ホームベース」ノ位置ニ近ク且打球者ノ企望スル高サニ之ヲ投グルコトノ目的アルガ如キ（第五條ヲ參看セヨ）「ピツチヤル」ガ球ヲ投グルニ注意スベシ則規

外貌ヲ示シテ臂ヲ動カシ其球ヲ投ゲザル時ハ判者ハ「ボーク」ト呼ブベシ

一ノ演習者(走)ノ第三「ベース」ニ在ルトキ「ピッチヤル」ハ己ノ投ゲシ球ニ随ヒ「ホームベース」ニ近ツキテ「ケツチヤル」ヨリ投グル球ヲ受取ル用意ヲ爲スベシ又「ベース」ヲ守ル演習者ノ球ヲ停メンガ爲メ其「ベース」ヲ離ル、トキハ「ピッチヤル」ハ速カニ其空位ノ「ベース」ヲ充タスベシ又投方ヲ一様ナラシムルハ第一等ノ「ピッチヤル」ニ向ツテハ最モ必要ノモノトス

「ピッチヤル」ノ球ヲ投グル眞正ノ術ハ打球者ノ眼ヲ欺ムクニアリ之ヲ詳言スレバ「ピッチヤル」ノ球ノ投グルヤ恰カモ打球者ヲシテ其所望ノ球ノ如ク思惟セシメ實地之ヲ打ツ時ハ高低遲速其意外ニ出デシムベシ

「ファウルボール」ノ時ニ於テ「ベース」ヲ走ル演習者其元ノ「ベース」ニ歸ラントスル時「ピッチヤル」ハ直チニ其「ベース」ニ走リ行キ「ケツチヤル」又ハ他ノ味方ヨリ球ヲ受取リテ「ベース」ニ歸ル所ノ演習者ヲ驅逐セン事ヲ勉ムベシ又「ピッチヤル」

ハーフアウルボール」ヲ取ル前ニ其味方ノ位置ニ注意スルヿ緊要ナリ如何ントナレバ「ピッチヤル」ニシテ不注意ニ球ヲ取ルキ「ベース」ヲ走ル者鋭敏ナレバ其「ベース」ヲ守ル味方ガ「ピッチヤル」ヨリ球ヲ受取ル位置ニ至ラザルニ早ク一「ベース」ヲナスヿノ機會ヲ得レバナリ

「ケッチヤル」ト「ピッチヤル」ハ常ニ互ニ其擧動ヲ知得セザル可ラズ蓋シ「ベースボール」ニ於テハ恰カモ戰場ニ於ケルガ如ク最モ謀略ヲ要ス故ニ「ケッチヤル」ト「ピッチヤル」ハ互ニ其暗号ヲ知ルヿ文字ヲ讀ムト一般ナル熟練ヲ要スサレバ「ケッチヤル」ハ若シモ「ベース」ヲ走ル演習者ハ放心シテ「ベース」ヲ離レテアル片ニハ直チニ球ヲ投グベキヲ指示セル合圖ヲ「ピッチヤル」ニ傳フベシ又打球者ノ球ヲ打ツノ習慣ヲ知ルキハ「ピッチヤル」ハ豫カレメ其習慣ニ應ジテ球ヲ投グルノ疾徐緩急ヲ「ケッチヤル」ニ暗號ヲ以テ傳フベシ例ヘバ驅逐セラルヽカ又ハ「ベース」ヲナセシ所ノ打球者ハ速ヤカナル球ヲ送ラレタルモ之ニ次グ打球者ハ遲キ球ヲ嫌忌スル者ナリト

想像セヨ「ピッチヤル」ハ「ケッチヤル」ニ暗號ヲ以テ棒（バット）ニマテ近ク來ラレムベシ之ニ由リテ「ピッチヤル」ハ球ヲ投グルコニ徐ヤカナルベキヲ「ケッチヤル」ニ指示ス打球者ハ固ヨリ其變化ヲ知ラザレバ前ノ打球者ノ受取リタル球ト同ジク速カナル球ヲ打ツベク用意ス是ニ於テ乎打球者ヲシテ過急ニ球ヲ打タレムルノ結果ヲ生ズベシ

第三　レヨルトストップ「レヨルトストップ」ノ位置ハ前者ニ次テ甚ハダ緊要ノモノトス而シテ寔ニ其位置ニ屬スル職分ヲ盡サントスルニハ球ヲ投グルコニ就テ最モ判斷力ニ富ミ且精密ト活潑トヲ要シ又能ク球ヲ取リ或ハ停止スルニ巧妙ナルベシ

「レヨルトストップ」ハ「ピッチヤル」又ハ第三「ベースマン」ノ「アウルボール」ヲ受取ラントスル時ハ常ニ其後部ニ走リ行キ「ピッチヤル」又ハ第三「ベースマン」ガ之ヲ取外セシ時ハ第一「バウンド」ニテ之ヲ受取ルベシ

若シ第一「ベース」ニ在ル演習者ガ第二「ベース」ニ

走ラントスルニ方リ「ケッチャル」ヨリ第二「ベース」ニ球ヲ投グルキ「レヨルトストップ」ハ第二「ベースマン」ガ之ヲ受取外ス場合ニ於テハ球ヲ止ムベキ爲メニ第二「ベース」ノ後部ニ走ルベシ

「レヨルトストップ」及第一「ベースマン」ハ互ニ球ヲ投ゲ又ハ之ヲ受取ルノ練習スベシ蓋シ其技術ノ熟練ヲ増スキハ競爭遊戯ニ於テ効アレバナリ

第四　フオルストベース（第一「ベース」）　此位置ヲ占ムル演習者ハ打球者ノ球ヲ打ツキニハ「ベース」ノ後部「アウルボール」線前四尺乃至八尺ノ場所ニ居リ又打球者ノ習慣ニ由リテ「ベース」ノ左方或ハ右方ニ或ハ遠ク或ハ近ク其位置ヲ占メ若シ其球ノ自身ノ方位ニ來ラザルキハ直チニ其「ベース」ニ歸リテ一足ヲ「ベース」ニ付ケ球ヲ受取ル用意ヲ爲スベシ蓋シ該演習者ハ最モ熟達セルタル「ケッチャル」ナルヲ要ス如何ントナレバ自身ノ左方若クハ右方或ハ頭上若クハ足部ニ迅速ニ來ル球ニ注意シ之ヲ受取フザル可ラザルガ故ナリ

第一「ベースマン」ハ左手ヲ使用スルヲ得意トスル者ナルヲ要ス如何ントナレバ此「ベース」ニ來ル球ハ左方ヨリスルモノ多キガ故ナリ

第一「ベースマン」ノ其足ヲ「ベース」ニ付テ球ヲ受取ルキト打球者ノ「ベース」ニ達スル時ト相同ジキ片ハ打球者ハ「アウト」トナラズ打球者ニシテ「アウト」トナリタルキハ第一「ベース」ニアル演習者ハ第二「ベース」ニ走ルコヲ得ズ故ニ斯ノ如キ場合ニ在テハ第一「ベースマン」ハ「ベース」ヲ離レテ球ヲ受取リ該「ベース」ニアル演習者ニ着ケテ之ヲ「アウト」トナシタル後「ベース」ニ足ヲ着ケ打球者ヲ「アウト」トナスベシ如何ントナレハ打球者ノ「アウト」トナラザル以上ハ該「ベース」ニ在ル演習者ハ其「ベース」ニ止ルノ權利ヲ有セザレバナリ若シ此場合ニ於テ球ヲ以テ第一ニ「ベース」ニ足ヲ着ケ然後該「ベース」ニアル演習者ニ球ヲ着クルキハ唯打球者一人ヲ「アウト」トナスノミ如何ントナレバ打球者ガ「アウト」トナリタルキハ其演習者ハ該「ベース」ニ止ルノ權利ヲ有スレバナリ而シテ打球者カ高キ球ヲ

打チ敵ヨリ受取ラルヽキハ第一「ベース」ニ在ル演習者ハ第二「ベース」ニ走ルヿ能ハズ敵ノ球ヲ受取得ザリシキニ第二「ベース」ニ走ルヿヲ得故ニ此場合ニ於テハ「アウト」トセラルヽヿ多シ

第五　セコンドベース（第二「ベース」）　此位置ハ極メテ緊要ノモノニシテ熟練ノ者ヲ以テ其位置ヲ充タシムルヲ要ス此演習者ハ最モ熟練ノ「ケツチヤル」ニシテ精密ト迅速トニ由リテ球ヲ投ゲ得且停ルヿニ巧ミナルモノナルベシ而シテ常ニハ「ベース」ノ後部ニ居リ打球者ノ球ヲ打ツ摸様ヲ熟知シ左方或ハ右方ニ倚リテ位置ヲ占ムベシ又或場合ニ於テハ「ニツチヤル」ノ後部ニ走セ行キテ成ルベク球ヲ通過セシメザランヿヲ勉ムベシ

打球者ノ第一「ベース」ニ達スルキハ自身ノ位置ニ歸リ「ケツチヤル」ヨリ投グル所ノ球ヲ受取リ且其球ヲ以テ走ル所ノ演習者（第一「ベース」ヨリ第二「ベース」ニ）付ケテ之ヲ驅逐スベシ

又「ケツチヤル」ヨリ投グル所ノ球其正シキ方向ヲ取ラザルキハ之ヲ停メ且速ヤカニ之ヲ「ピツ

チヤル」ニ投ケ返スヲ勉ムベシ

第二「ベースマン」ハ第一「ベースマン」ノ球ヲ取ランガ爲メニ走リタレキハ直チニ第一「ベース」ニ走セ行クベシ如何ンナレバ第二「ベースマン」ハ第一「ベース」ニ球ノ打タレタルキ「ピツチヤル」或ハ「レヨレトストツプ」ヨリ第一「ベース」ニ接近スレバナリ

第六ソルトベース（第三「ベース」）此位置ヲ占ムル者ハ諸般ノ技術ニ於テ第一等ノ演習者ナルヲ要ス

第三「ベースマン」ハ第一「ベースマン」及第二「ベースマン」ニ比スレバ其任重シ第一第二「ベース」ノ損失ニ止ルト雖モ第三「ベースマン」ノ過失ハ唯一「ベース」ノ損失ニ至リテハ一二ノ回轉ヲ敵ニ得セシムルノ損失アレバナリ

若シ「ベース」ニ於テ敵ナキキハ第三「ベースマン」ハ打球者ノ「ベース」ヲナスヲ妨グ爲メニ球ヲ止メ且之ヲ投グルニモ迅速精密ナルベシ

「ベース」ヨリ「ベース」ニ球ヲ投グルキニ急速ナルキハ高キニ失センヨリハ寧ロ低ニ失スルヲ可

トス蓋シ低キ球ハ受得ザルモ之ヲ停止スルノ便アリ若シ高キ球ヲ受取得ザルキハ一個又ハ二個ノ「ベース」ヲ敵ニ與フルヿアレバナリ

以上ノ諸「ベース」ヲ充タス演習者ハ敵即チ打球者ノ其「ベース」ヨリ「ベース」ニ走ルヲ妨クベカラス又「ベース」ヲ走ル者モ敵即チ「ベース」ヲ守ル演習者ノ球ヲ受取リ又ハ之ヲ投ルヿヲ妨クベカラス

第七　レフトフィールド　此位置ヲ占ムル演習者ニ要用ナル技術ニ三アリ第一ハ飛來ル球ヲ受取リ第二ハ能ク走ルヿ第三ハ迅速ト精密ヲ以テ球ヲ投ケ得ルヿ是ナリ

第八　センタルフィールト　此位置ヲ充タスモノハ最モ敏捷ノ者ヲ要ス蓋シ飛ヒ來ル球ヲ受取リ或ハ第二「ベース」ノ後部ニ走リ行キテ之ヲ助ケ又「レフトフィールド」又ハ「ライトフィールド」ニ於テ通過セシメラレタル球ヲ停ムルヿニ於テ之ヲ補助セサル可ラサレバナリ

第九　ライトフィールド　此位置ヲ充タス演習者ハ常ニハ其取ル所ノ事業ハ九人中ノ他ノ演

習者ニ比スレバ大ヒニ輕キカ如シト雖モ或ハ事故アリテ他ノ演習者ニシテ其「ベース」或ハ其位置ヲ離ルヽ片ハ之ニ代リテ其位置ヲ占ムル者ナルカ故ニ殊ニ巧手ノ者ヲ要スベシ

以上説ク所ノ位置ヲ充タス九人ヲ總稱シテ「フイールダルス」ト云フ此九人ヲ一方トシ打球者九名ヲ他ノ一方トシ以テ敵ト味方トヲ區別スル而シテ打球者九名ハ各其正シク打球スル乎或ハ三度打外シタルトキハ直ニ第一「ベース」ニ走リ次ニ第二第三ノ「ベース」ニ走リテ後「ホームベース」ニ歸ルヿヲ勉ムベシ又他ノ九名即チ打球者ノ敵ハ打球者ノ「ベース」ヲ爲スヿヲ得ザラシメ且之ヲ驅逐センヿニ注意スベキモノトス

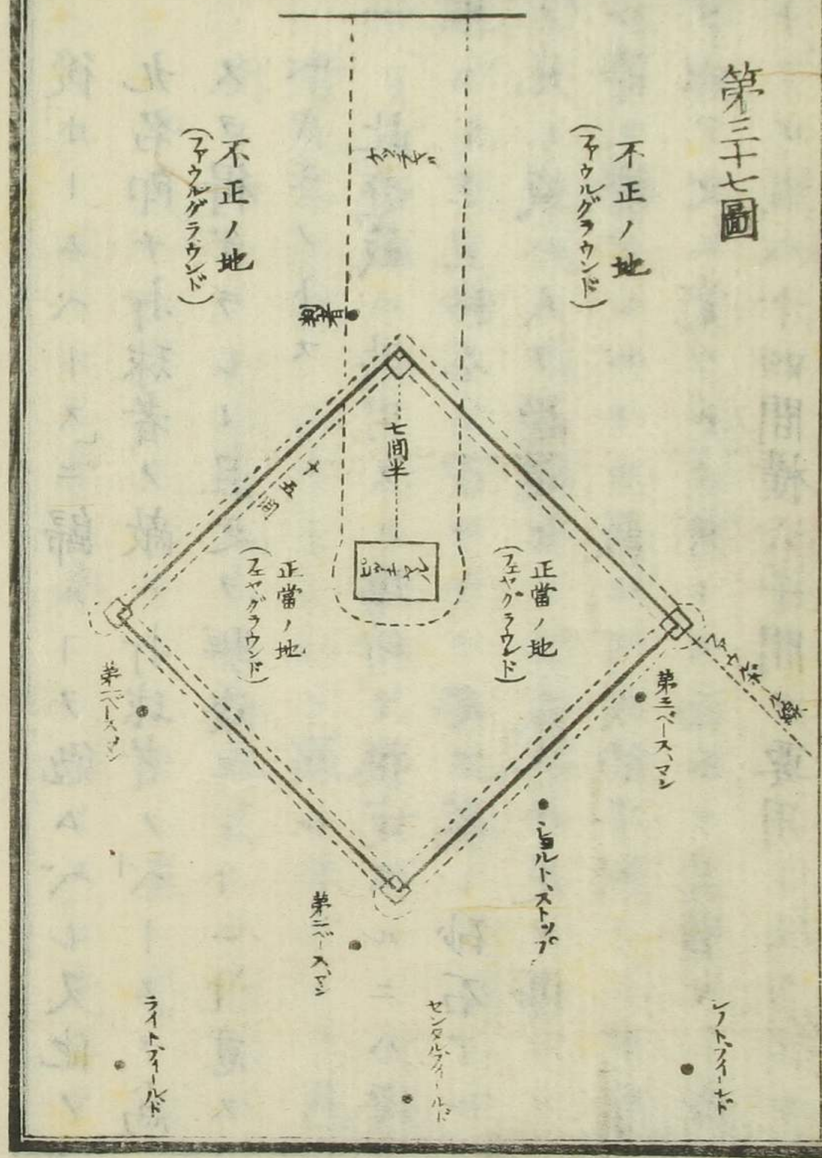
一　此遊戯ニ供用スハ場所ヲ撰定スルニハ平坦ニシテ且砂石ノ少ナキヲ要ス蓋シ砂石アルノ地ノ或ハ人ヲ顛躓セシメ或ハ手足ヲ傷ツクル等ノ弊アレバナリ故ニ可及的平坦ナル芝原ヲ以テ之ニ充ツルヲ可トス而シテ其廣サハ少ナクモ縦八十四間横六十間ヲ要用トス其内ヶ

第三十八圖

ベースボール勝敗表　明治　年　月　日

赤組	姓名 打毬者	一	二	三	四	五	六	七	八	九	アウトノ縁由	廻轉總數
姓名	置位	何誰	何誰	何誰	何誰	何誰	何誰	何誰	何誰	何誰		
一 何誰	ケッチヤル	1	1	1	?	1	1	1	1	1	受敗	
二 何誰	ピッチヤル	1	1	1	1	1	1	1	1	1	驅逐敗	
三 何誰	シヨルトストップ	1	1	1	1			1			受敗	
四 何誰	第一ベース											
五 何誰	第二ベース											
六 何誰	第三ベース											
七 何誰	レフトフヰールド											
八 何誰	センターフヰールド											
九 何誰	ライトフヰールド											
總數	廻轉各人	3	2	3	3	1	2	2	2	2		20

第三十七圖



廻轉總數									
アウトノ緣由	九 何誰	八 何誰	七 何誰	六 何誰	五 何誰	四 何誰	三 何誰	二 何誰	一 何誰
勝組	白組	姓名打越者							
遊戲地	姓名	位置							
	一 何誰	ケッチヤル							
	二 何誰	ピッチヤル							
	三 何誰	シヨルトストップ							
	四 何誰	第一ベース							
	五 何誰	第二ベース							
判者書記	六 何誰	第三ベース							
	七 何誰	レフトフィールド							
	八 何誰	センターフィールド							
	九 何誰	ライトフィールド							
	各人廻轉總數								

ツチヤル」トピ「ッチヤル」ノ位置トナスベキ地ハ平滑ニシテ且堅固ナルベシ又其演習者即チ「ファールダルス」ノ位置ハ第三十七圖ニ示スカ如クナルベシ

打球者姓名ノ右ニアル一二三等ノ數字ハ打球者ノ順序ヲ示スモノニシテ此内三人「アウト」トナリタル片ハ皆ナケ「ツチヤル」或ハピ「ッツチヤル」等ノ位置ニ移リ前ノケ「ツチヤル」及ピ「ッツチヤル」等ハ打球者トナリ其味方ノ内三人「アウト」トナルマテハ循環シテ打球スルノ權

利ヲ有スルモノトス

又右ノ帳簿ハ赤組ヲ以テ打球者ト見做シテ記入シタルモノニシテ其回轉數ヲ二十トス而シテ次ニ打球スル所ノモノ即チ白組ハ右同數以上ヲ回轉スレハ勝利トナリ然ラサルヤハ敗北トナスモノナリ而シテ其回轉ノ數双方同シキヤハ勝敗ナキモノナリ故ニ更ニ赤組之ニ代リテ打球者トナリ復タ回轉ヲナスモノトス

規則

球

第一條　通例球ノ重量ハ輕キモ四十匁ニ下ルヲ可ラス又重キモ四十三匁以上ニ昇ルヲ可ラス其周圍ハ八寸ニ下ルヲ可ラス又八寸一分ニ昇ルヲ可ラス而ノ印度護謨及毛絲ヲ以テ之ヲ造リヘカラス

柔革ヲ以テ掩フベシ

ベエット（打球棒）

第二條　打球棒ハ木製ノ圓形ナルモノニシテ其圓徑ハ最モ太キ部分ニテ二寸以上ニ上ルヲ可ラズ而シテ其長サハ打球者ニ恰當スルヲ要ス

ベース（床即チ位置）

第三條　「ベース」ハ四個ニシテ其ノ位置ノ各ノ距離ハ皆十五間ノ所ニアルベシ且其位置ハ判者ノ之ヲ點檢スルニ便利ナルヲ要ス又其大サハ一尺平方ニ等シカルヘシ而シテ第一第二第三「ベース」ハ白帆木綿ノ袋ニ砂粒又ハ鋸屑ヲ以テ之ヲ充タシ「ピッチヤル」ノ位置トホームベース」ハ平滑ナル白色ノ鐵板ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　球ヲ打ツ所ノ「ベース」ヲ「ホームベース」ト稱シ其位置ハ第二「ベース」ニ一直線ニ相對シ其一隅ハ「ピッチヤル」ノ位置ニ面シ左右ノ兩隅ハ「アウルボール」線ノ一部ヲ爲ス而シテ第一「ベース」ハ常ニ打球者ノ右側ニ第三「ベース」ハ其左側ニアルベシ競爭遊戯ニ於テハ「ホームベース」及第一第三「ベース」ノ相互ノ距離ニ白墨或ハ他ノ物品ヲ以テ分明ニ直線ヲ畫スルヲ要ス蓋シ判者ノ便ニ供スルナリ

ピッチヤル

第五條　「ピッチヤル」ノ位置ハ「ホームベース」ト第二「ベース」トノ間ノ直線ニ直角ヲ爲ス如ク引

キタル長サ一間ノ二線ヲ以テ表示スヘシ但一線ハ「ホームベース」ヲ離ルヽ七間半ニシテ他ノ一線ハ八間壹尺ノ距離ニアルベシ之ヲ再説スレハ兩線ノ間ヲ四尺トシ其中心點ヲ「ホームベース」ト第二「ベース」トノ直線上ニ置クベシ而シテ「ピッチヤル」ハ其球ヲ「ホームベース」ニ投クレ𪜈ハ必ラス二線ノ間ニ居リ且「ホームベース」上ニ近ク投クベシ

第六條　「ピッチヤル」ガ遊戯ヲ延引センガ爲メカ又ハ他ノ源因ヨリシテ故意ニ善キ球ヲ投ケザル𪜈ハ判者ハ之ヲ説諭スヘシ而モ其命ニ從ハサル𪜈ハ判者ハ「ワンボール」ト呼ヒ尚ホ從ハザル𪜈ハ「ツーボール」「スリーボール」ト呼フヘシ若シ判者ヨリ「スリーボール」ト呼ブ𪜈ハ打球者ハ第一「ベース」ニ走ルベシ又其時「ベース」ヲ走ル人アラハ驅逐セラルヽ「ナク他ノ「ベース」ヲ取ルベシ

第七條　球ハ必ラス打球棒ニ向ツテ投ケラルベシ而シテ「ピッチヤル」ノ球ヲ投ゲントスル明白ナル目的ヲ以テ動ク𪜈ハ必ラズ球ヲ投クヘ

シ又球ヲ投クルトキニ方リテハ足ヲ前線外ニ進メ或ハ地ヲ離ルベカラス若シ然セサルトキハ判者ハ「ボーク」ト呼フヘシ（球ヲ投グルトキニ方リ「ピッチヤル」ノ前臂ハ其體ニ接スルトキハ之ヲ「チヤルク」ト云ヒ若シ球ヲ投クルトキニ方リ肩ノ水平ニテ臂ヲ屈スルトキハ之ヲ「スロー」ト云フ是皆不正ノ投ケ方ナリ正シク投ゲラレタル球ヲ「ピッチドボール」ト云フ「ピッチドボール」トハ臂ヲ真直ニシ体ニ付クルヿナク之ヲ鉛直ニ鞦韆シテ投ゲタル球ナリ凡テ「ピッチヤル」ヨリ「ボームベース」ニ投クル球ハ「ピッチドボール」ナルヲ要ス）

ボーク

第八條　「ピッチヤル」ノ「ボーク」ヲ爲ストキハ「ベース」ヲ走ル演習者ハ驅逐ヲ受クルヿナク各一「ベース」ヲ爲スベシ

フエヤボール（正シキ球）

第九條　打球者ハ正シキ球ヲ打ツトキハ直チニ「ベース」ヲ走ル所ノ演習者（ベース、ランナル）トナルベシ

第十條　打球者ノ打チタル球ニシテ「フアウルボール」線ノ前面又ハ其線上ノ地或ハ其演習者ノ身體ニ第一ニ觸ルヽトキハ其球ヲ「フエヤボール」ト稱ス又打球者ノ打チタル球ニシテ「フアウルボール」線ノ后部ノ地或ハ其演習者ノ身體ニ第一ニ觸ルヽトキハ其球ヲ「フアウルボール」ト稱

ス斯ノ如ク打タレタル球アリテ判者ニ於テ「フ」
アウルボール」ナル「ヲ」ヲ認メタルキハ球ノ地ニ
付ク前ニ判者ハ「フアウルボール」ト呼ブベシ
球ヲ打ツ「」
第十一條　球ヲ三度順次ニ打チ之ヲ打外スキ
第三ノ球ハ飛ナカラ或ハ第一「バウンド」ニテ取
ラレザルキハ正シキ打チト見做シ即チ打球者
ハ直チニ第一「ベース」ニ走ル「ヲ」得ベシ
フアウルボール（打チ損ジラレタル球）
第十二條　「フアウルボール」ノ地ニ達スル前或

ハ第一「バウンド」ニテ取ラル、キニハ打球者ハ
「アウト」トナルモノトス
スリーストライクス（三個ノ打）
第十三條　三度モ打外シ第三ノ球ノ地ニ就ク
前又ハ第一「バウンド」ニテ取ラル、キハ打球者
ハ「アウト」トナルベシ但三度打外サレタル球ノ
内「ボール」又ハ「ボーク」ト呼ハレタルモノカ又ハ
故意ニ打外サレタル球アルキハ此限ニ非ス
第十四條　正シク打タレタル球即チ「フエヤボ
ール」ノ地ニ達スル前ニ受取ラレタルキハ打球

者ハ「アウト」トナルベシ

第十五條　正シク打タレタル球即チ「フエヤボール」ノ其打球者ノ第一「ベース」ニ達セザル前同「ベース」ニ足或ハ他ノ部分ヲ着ケタル敵手ニ受ケラレヽ𪜈ハ打球者ハ「アウト」トナルベシ

「ベース」ヲ走ル「

第十六條　何レノ𪜈ニ拘ハラス「ベース」ヲ走ル演習者ハ己レノ體ノ一部分即チ足或ハ手ヲ「ベース」ニ置カザル𪜈ニ敵手ノ手ニアル球ヲ體ニ付ケラレタル𪜈ハ「アウト」トナルモノトス（初メテ第一「ベース」ニ走リタル𪜈ハ此限リニアラスト雖モ第二「ベース」ニ走ラント企テタル後第一「ベース」ニ歸リタルモノハ一般ノ規則ニ從ーモノトス）

第十七條　「フアウルボール」ノ𪜈ハ「ベース」ヲ爲ス可ラス而シテ斯ノ如キ球ハ死シタル球トシ其球ノ「ピッチヤル」ノ手ニ至ラザル間ハ「ベース」ヲ爲ス可ラス且此ノ場合ニ方リテ「ベース」ヲ走ル演習者ハ舊ノ「ベース」ニ歸ルベシ若シ元ノ「ベース」ニ歸ル「ナク他ノ「ベース」ニ走ル𪜈ハ「アウト」トナル

フエヤボール

第十八條　「フエヤボール」ノ地ニ達スル「ナク受取ラル丶キハ「ベース」ヲ爲ス可ラス即チ「ベース」ヲ走ル演習者ハ元ノ「ベース」ニ一タビ歸ルベシ若シ次ノ「ベース」ニ走ルキハ「アウト」トナス但斯ノ如キ球ハ生キタル球ト名ヅク故ニ「ベース」ヲ走ル演習者ハ元ノ「ベース」ニ歸ル后チ直チニ他ノ「ベース」ニ走ル「ヲ得

打球者ノ位置

第十九條　打球者ハ球ヲ打タントスルキハ決シテ前後ニ進退ス可ラス即チ「ピッチヤル」ノ位置ト併行セル「ホームベース」ノ中心ヲ通ジテ引カレタル直線ノ左右各三尺以内ニ止ルベシ而シテ球ヲ正シク打ツマテハ打球者ノ位置ヲ離ル可ラス打球者ハ正シキ順序ニ於テ打球スヘシ而シテ次回ノ打球スル順番ノ來ル



第三十九圖

ヰハ終ニ「アウト」トナリタル次ノ演習者ヨリ打チ初ムヘシ（打球者ノ組ノ三人「アウト」トナルマデハ循環打球スヘシ）

「ベース」ヲ空（アケ）ルヿ

第廿條　演習者ハ球ヲ打ツ順序ニ循ツテ其「ベース」ヲ取ルベシ而シテ一演習者アリ球ヲ正シク打チ且球ノ飛フ間ニ敵ヨリ受取ラルヽナキ場合ニハ第一「ベース」ハ速カニ空（アケ）ラルヽベシ若シ此時其次ノ「ベース」ヲ充タス人アルヰハ其演習者モ順序ヲ追フテ次ノ「ベース」ニ走ラザル可ラス若シ前ノ「ベース」ヲ充タセル演習者ノ走リ來ルヰ尚ホ其「ベース」ニ止ルヰハ「アウト」トナルベシ（一「ベース」ニ二人止マルヰハ前ヨリ止レルモノ「アウト」トナルナリ）

演習者ハ必ラス「ベース」ニ觸ルヽベシ

第二十一條　「ベース」ヲ走ル演習者ハ必ラス之ニ觸ルヽヲ要ス而シテ其走ルヰハ成的進路ヲ直線ニ取リ且第一第二第三及「ホームベース」ニ順次ニ觸ルヽベシ若シ敵ノ手ニ在ル球ヲ避ケンカ爲メニ直線三尺以外ノ場所ヲ走ルヰハ「アウト」トナルベシ

球ヲ取ルヿ

第二十二條　故意ニ敵ノ球ヲ受取ルヿ或ハ之ヲ停ムルヿヲ妨ケタル演習者（打球者或ハ走者）ハ「アウト」トナルベシ

「ベース」ノ妨ゲ

第二十三條　敵ノ故意ノ妨ケニ由リテ「ベース」ヲ爲シ得サル片ハ其演習者ハ其「ベース」ニ走ル權利ヲ有スルモノトシ「アウト」トナス可ラズ」

遊戯ニ關係セザル人ニ由リテ止メラレタル球

第二十四條　球ハ敵方ノ演習者ノ帽子ヲ以テ止メラレ或ハ遊戯ニ關係セサル人ニ止メラレ又ハ其遊戯ニ關係セザル人ノ手ヨリ球ヲ受取ラレタル片ハ縦令其球ヲ付ラルヽト雖モ一タヒ「ピッチヤル」ノ手ニ在リシニアラザル以上ハ其演習者ハ「アウト」トナラザルベシ

二人「アウト」

第二十五條　既ニ二人ノ演習者ニシテ「アウト」トナリタル後ハ打球者ノ球ヲ打チタル片「ホームベース」ニ走ル所ノ演習者ハ左ノ場合ニ在リテハ一ノ走（ラン）リヲナスヿヲ得ズ

打球者ハ其打チタル球ヲ受取ラル、カ又ハ「ホームベース」ト第一「ベース」ノ間ニテ球ヲ付ケラル、カ又ハ打球者ノ第一「ベース」ニ達スル前其「ベース」ニ足ヲ着ケタル敵ニ球ヲ持タレタルヲ以テ「アウト」トナリタルキ

第二十六條　三人「アウト」トナリタルキハコレマテ「ベース」ヲ守リシ敵方ノ演習者即チ「ライールダルス」ハ代リテ打球者トナルベシ

勝敗ヲ決スルコト

第二十七條　演習者ノ敵ト味方トモ打球スル

コト各九回ニシテ其回轉シタル數ノ彼此相同シキ場合ニハ一方ノ多數ヲ得ルマテ遊戯ヲ連續シテ勝敗ヲ決スルヲ法トス

競爭遊戯

第二十八條　競爭遊戯ニ於テハ敵ト味方ト各九人ヲ要用トス而シテ各組ヨリ一人ノ統領ヲ選ビ又演習者ノ位置打球者ノ順序ハ其統領之ヲ定ムベシ

判者

第二十九條　判者ハ球、打球棒及「ベース」ニ付テ

ノ規則並ニ「ピッチヤル」及打球者ノ位置等ノ正否ヲ監察シ又遊戯ノ正シキヤ否ヤヲ裁判スルノ職ニ任スベシ」遊戯中ニ生ズル爭論ヲ判決ス」「アウルボール」「ボーク」「ストライク」等ノ生シタルトキハ之ヲ告示シ又一演習者ノ「アウト」トナリタルトキハ其理由ヲ明瞭ニシテ之ヲ通知スベシ」遊戯ヲ終レバ其勝敗ヲ決定シテ之ヲ告示シ及之ヲ帳簿ニ記錄スベシ」判者ハ遊戯ヲ中止セントスルトキハ「止メ」ノ令ヲ下スベシ此場合ニ於テ再ヒ始メ」ノ令アルマテハ「ベース」ヲ走リ或ハ驅逐スルコトナシ然レ𪜈遊戯ヲ中止スルハ判者又ハ演習者ニ事故或ハ害ヲ生ズルカ若クハ雨天ノ𪜈ニ限ル

判者ハ誰ニ由リ選ハルヘキヤ

第三十條　競爭遊戯ニ於テハ双方ノ統領之ヲ選擧スベシ而シテ判者ハ第二十七條ニ記セル職務ヲ執行スヘシ但帳簿ヲ記錄スルモノハ二人ヲ要ス而シテ敵味方双方ヨリ一人ツヽヲ選コモノトス

第三十一條　判者又ハ書記生又ハ演習者ハ病

氣或ハ傷害ヲ受ケタルキ又ハ規則ニ抵觸セシ等ノ事情アルニアラザレハ双方ノ認可ヲ受ケスシテ遊戯ヲ退クヿヲ得ス然レモ其規則ニ抵觸スルカ如キ場合ニ於テハ判者ノ專斷ヲ以テ直チニ之ヲ退場セシムルモノトス

判者ト談話スルヿアルニアラサレハ何人ト雖モ判者又ハ書記生又ハ演習者ニ向ツテ談話スルヿアルベカラズ

遊戯ヲ妨礙スル所ノ打球者

第三十二條　演習中ハ判者ノ要求アルニアラサレハ何人ト雖モ判者又ハ書記生又ハ演習者ニ向ツテ談話スルヿアルベカラズ

遊戯ヲ妨礙スル所ノ打球者

第三十三條　打球者ハ遊戯ヲ延引セシメントシ若クハ一ノ演習者ヲ利益セントスルノ謀略ニ由リテ屢次投ケ來ル所ノ其打ツニ便ナル球ヲ打タサル片ハ判者ハ之ヲ諫メタル後「ワンス トライク」(一打)ト呼ブ若シ尚ホ其命ニ服セサルキハ「ツース トライク」(二打)「スリー ストライク」(三打)ト呼ブベシ此場合ニ際シテハ打球者ハ既ニ三個ノ球ヲ打チタルモノト同シキ場合ノ規則ニ由リテ支配セラルベシ

第三十四條　打球者ノ球ヲ打外シタルキハ其

第一回ニ於テハ判者ハ「ワンストライク」ト呼ビ
第二回ニ於テハ「ツー」ニ「ストリーストライク」ト呼ヒ第三回
ノ「ボール」又ハ「ストライク」ト呼フベシ而シテ又判者
ベース」ヲ經過セザル前ニ於テスベカラス

遊戲ノ數

第三十五條　遊戲ハ三回ヲ以テ定度トシ其中
二回多數ヲ得タル組ヲ勝利トス又ハ双方之ヲ
承認スルキハ單ニ一回ヲ以テ勝敗ヲ決スルコ
アルベシ

判者ノ職掌

一　此職任ヲ委托セラルヽ紳士ハ能ク遊戲ノ
要用ナル規則ヲ熟知シ加之其規則ヲ實行スル
ニ最モ大切ナル公平ノ心ヲ保有スルヲ要ス若
シ其遊戲ノ仲間ニ判者ニ知己アルモ苟モ其遊
戲ノ勝敗ヲ決スル場合ニ於テハ其人ヲ知ルト
知ラザルトヲ以テ偏頗愛憎ノ處置ヲ爲サヾル
キハ益シ非難ヲ避クルヲ得ベシ

二　判者ハ其演習中ハ演習者又ハ觀客ト言語
ヲ接スルコヲ得ズ若シ止ムヲ得スシテ談話ス

ルトキハ其音聲ノ明瞭ナルヲ要ス何ントナレハ演習者又ハ觀客ハ常ニ其勝敗ニ注意シ苟モ其己レニ不利益ナル判者ノ擧動ヲ見出スノ習慣ヲ保有スルモノアレバナリ而シテ是等ノ人ハ自ラ遊戯ヲ愛スルト云フト雖モ世ノ遊戯ノ完全ト隆盛ヲ企望スル人ハ之ヲ以テ却テ其遊戯ヲ妨害スルモノトセリ寔ニ判者ノ職掌ハ恰カ誹謗ノ淵叢ニシテ不快ノ地位ナリト雖モ一タビ意ヲ決シテ其職ニ任スルトキハ又其毀譽褒貶ヲ意ニ介セズ斷乎トシテ其明瞭爽快ナル音調

ヲ以テ之ヲ決定スルヲ要ス

三　打球者ハ其良キ球ヲ打ツヿヲ嫌忌スルニ方リ判者ハ「ワンストライク」ト呼ビ尚ホ其命ニ服セサルトキハ其場合ニヨリ「ツーストライク」又ハ「スリーストライク」ト呼ビ嚴ニ其規則ヲ實行スルヿハ判者ノ義務トス而シテ又「ピッチヤル」ノ打球者ノ打チ得サル球ヲ投クルトキニハ同ジク「ピッチヤル」ニモ其規則ヲ適用シ其場合ニ於テハ「ワンボール」「ツーボール」「スリーボール」ト呼ブベン

四　判者ハ常ニ「ピッチヤル」ノ擧動ニ精密ニ注意シ殊ニ其兩足ハ適當ナル地位ニアルヤ否ヤヲ視察スベシ又「ピッチヤル」ノ臂ガ體側ニ接シアルヤ否ヤヲモ檢スベシ若シ然ルキハ「ピッチド」セラレズシテ「ジヤルクド」セラルヽニ至レハナリ

五　樹木若クハ建物若クハ垣牆ニ衝リタル後飛ヒナカラ或ハ第一「バウンド」ニテ受取ラレタル惡キ球ハ其遊戯ヲ初ムルノ前ニ双方ニ別段ノ約束アルニ非ザレハ判者ハ之ヲ「アウト」トナスベシ樹木若クハ建物ヨリ落チ來リ且飛ビナカラ受取ラレタル良キ球ニモ此規則ヲ適用スベシ

六　競爭遊戯ニ於テ其黄昏ニ至リテ僥倖ノ勝利ヲ期シ故意ニ遊戯ヲ遲延セシメント謀ルノ弊習アルモノトス故ニ判者ニシテ此情實アルヲ豫知スルキハ速ヤカニ遊戯ヲ停止シ双方一様ナル回數ニ由リテ勝敗ヲ決定スベシ

第廿一　操櫓術

操櫓術ハ戸外運動中最モ秀逸ニシテ且演習者

ニ大ナル利益ヲ與フルモノナリ今其效用ノ一二ヲ擧クレバ演習者ノ臂ト肩トヲ健强ニシ且胸膛ヲ廣濶ニシ終ニ身體ノ健康ト容貌ノ優美ヲ與フルカ如キ其著大ナルモノナリ

今其初進ノ演習者ニ要用ナル方法ヲ叙述スルヿ左ノ如シ

漕手ノ船中ニ於ケル位置　漕手ハ各自舳ニ面シテ横板(腰掛)上ニ座シ首ヲ前後或ハ左右ニ傾ケ又ハ肩ヲ縮ムルヿナク上體ノ位地ヲ全ク自然ニ任スベシ位置斯ノ如クニシテ始メテ肩臂ノ筋肉ヲシテ自由ニ活動セシムルヲ得ヘシ而シテ兩足ハ足尖ヲ開キ踵ヲ接シテ足架ニ付ケ膝ハ橈柄ノ接セザルヲ度トシテ曲ゲ肩ハ方正ニ保持シ上體ハ船ト一直線ニ前後ニ動スベシ又大ヒニ注意スベキハ船中ニ於テ動揺スルヿヲ堅ク禁スルノ一事是ナリ如何トナレバ若シ漕手ノ一人其體ヲ動カスヰハ隨テ船體モ亦動キ其影響ハ他ノ漕手ノ漕力ヲ減スレハナリ

橈ノ握方　橈ノ握方ハ漕手ノ位置ニ次デ要用ナル件ナリトス蓋シ橈ヲ持ツ正シカラザレバ

漕方亦正シキヲ得ズ乃チ其握方ハ外部ノ手ハ拇指ヲ上ニシ内部ノ手ハ拇指ヲ下ニシテ橈柄ヲ握リ肘ハ常ニ體ニ付ケ漕グキハ十分ニ之ヲ伸バスベシ

「ストローク」ノ長サ「ストローク」ハ「漕グ」ノ義ニシテ一「ストローク」ト云フハ橈刃ノ水中ニ在ル間即チ橈ヲ引ク間ヲ始メント為ス時ヨリ「ストローク」ノ終ルマデトスコレ其理ニアリ第一ハ橈刃ノ進ムヿ其程ヲ失シテ角度大ニ過グルノ弊アレハナリ且橈ヲ引クヿ十分ニ力ヲ込ムルヿハ橈ノ船體トヤヽ直角ヲ爲ス時ヨリ「ストローク」ノ終ルマデトスコレ橈ノ水外即チ回復ノ間船ヲ聘ラスベシ第二ハ胃腑ノ筋ヲ緊張スルヿ其度ヲ失シ且其回復ヲナスニ於テ大イニ勞力ヲ要スレバナリサレハ船ノ進行ヲシテ速ヤカナラシメンニハ「ストローク」ヲ縮メズシテ之ヲ早クスルニアリ又「ストローク」ハ常ニ長ク且一様ニシテ回復ヲ速カナラシムヘシ船ノ進行ノ速否ハ橈ニ用ヒラレタルカノ大小ニ由ルヿトナリ

橈ヲ水中ニ入ル、方法　最モ注意シテ正シク

橈ヲ水ニ入ラシメザル可ラズ即チ橈刃ハ水面ト精密ニ直角ヲナシテ水中ニ入ルヲ善トス蓋シ橈ヲ水中ニ入ル時ニ方リ橈刃ノ下部少シク船ノ後部ニ傾クトキハ其側ニ於テ船ヲ下方ニ壓シ艫ノ方ニ傾クトキハ橈ノ働ハ上方ニアルベシ乃チ漕手ハ其橈ヲ外スヿアルベシ若シ橈ノ水中ニ入ルトキニ平ラタキトキハ之ヲ並行ト云ヒ橈刃ヲ以テ水面ヲ直角ニ切ルトキハ之ヲ直角ニ入ルト云フ此直角ノ位置ニ非ザレバ實ニ正シク漕クヿ能ハズ

フエザル　「フエザル」ハ「ストローク」ノ終ニ於テ橈ノ水面ヲ離ルヽトキノ働ナリ「フエザル」ヲ爲スニハ體ノ方ニ手腕ヲ少シク上方ニ回旋シ且橈刃ノ水ヲ離ルヽトキ其角度ハ四十五度ヨリ五十度ナルベシ即チ橈ノ水ヲ離ルヽトキ橈刃ノ上部ヲ上方ニ向クルヿニ注意ヲナスベシ否ラサレハ橈ニ水ヲ受ケテ倒ルヽノ患ヒアリ又「シヤンク」ノ水中ニ没スルマデ深ク橈ヲ入ルトキハ餘分ノ働ヲナシ且船ノ進行ヲ妨クベシ

漕ク時ノ舉動　演習者ノ員數ノ多寡如何ニ拘

ハラズ實地ノ演習ヲ始ムルトキニ方リ最モ要用ナルヿハ漕ク方法并ニ之ヲ適當ニ活用スルヿナリ蓋シ體勢ヲ察スルニ一人ハ臂長ク一人ハ短ナル等概シテ一様ナル二人ノ演習者ヲ得ルヿハ極メテ困難ナリ然レトモ「ストローク」ノ長サハ一様ナラザル可ラズ如何トナレバ二人ノ「ストローク」ノ長サニ差異アレバ船ヲ進ムルヿ眞直ナルヿ能ハザレバナリ

船中ニ於テ最モ要用ナル最後ノ位置ニ在ル者即チ「ストローク、オワー」（最尾ノ橈或ハ其位置ノ漕手ヲ云フ）ノ要務ハ他ノ漕手ノ伎倆ニ相準ジテ過グルナキヲ要ス然ルニ人或ハ「ストロトク」ノ長サヲ長クスルヲ以テ最モ宜シキヲ得タルモノト誤認シ他ノ漕手ヲシテ十分ノ伎倆ヲ盡スヲ得サラシムルヿアリ誤レリト云フベシ要スルニ「ストローク」ハ長ク且一様ニシテ各漕手ノ伎倆ニ適當ナルヲ以テ要用トス

力ノ平均　力ノ平均ハ船ヲ漕グニ要用ノヿナリ然ルニ熟練ナル漕手ニシテ屢々之ヲ看過スルヿアリト雖トモ船ノ兩側ノ漕グ力ニシテ平均

セザレハ船ノ進行眞直ナル能ハズ終ニ舵ヲ使用シテ之ヲ矯正セザル可ラザルニ至リ到底船ノ進行ヲ妨礙スルモノトス

演習者ハ大概各自ニ其船ノ或側ニ於テ漕グヲ以テ得意トス故ニ重量若クハ力量ノ平均ヲ得セシメンカ爲メニ各演習者ノ得意トセザル所ノ側ニ置カルヽ時ハ屢不平ヲ訴フルヲ常トス是レ又誤レリト云フベシ演習者ニシテ單ニ各自ノ得意トスル所ニ拘泥スルヤハタトヒ其得意トスル側ニ於テハ熟練ノ漕ヲナスト雖モ未タ以テ操櫓術ヲ知ルモノト稱ス可ラス而シテ兩側ノ力量相平均スルヤハ船ノ進行眞直ナリ船ノ進行已ニ正直ナレハ舵ヲ使用スルヲ要セス又水ノ抵抗スルヿ少ナク爲メニ船ノ進行モ亦速ヤカナルベシ

橈ヲ水ニ入ルヽニ一樣ナル距離ヲ保ツヿ

手ノ巖重ノ注意ヲ要ス故ニ各漕手橈ヲ水ニ入ルヽヤ其橈間ノ距離ヲシテ精密ニ一樣ナラシメ且其橈ヲ引クヤ同時ナルヲ要ス而シテ船

ノ進行ハ眞直ナルベシ然レ𪜈一ノ演習者ノ「ス
トローク」ノ長サ短カク他ノ演習者ニ先ダチテ
橈ヲ水ニ入ルヽモノアル𪜈ハ爲メニ船ヲ動揺
セシメテ他ノ演習者ノ十分ナル漕ヲナス「ヲ
妨ゲ隨テ船ノ進行ヲ妨碍スルニ至ルノ害アリ
トス
「ストローク」ノ長サ及度數ニ付テハ別ニ其定則
ナシト雖𪜈大ヒニ注意スベキ件ハ漕力ヲ適用
スルニ最モ利益ヲ致スニアリ又其度數ハ競漕
ニテハ一分時間四十以上ナルベシ然レ𪜈其回

復ノ速ヤカナルヲ以テ「ストローク」ハ最モ十分
大イニ且長キヲ得ルモノトス「ストローク」ハ橈
ノ水ヲ飛散スル「ナク又激動スル「ナクシテ
圓滑ニ且均一ニ水ニ入ルヲ要ス又橈ニ力ヲ用
フルヤ徐々ニシテ殆ント橈ノ船ト直角ヲナス
時ヨリ「スーローク」ヲ終ルマデ十分力ヲ用フベ
シ而シテ橈ノ刃ヲ以テ水ヲ揚ケ又ハ水ヲ止ル
「ナクシテ「フエザル」(前ニアリ)センカ爲メニ最モ熟
練ヲ要スベシ
回復即チ「フエザル」スル時ニ方リテ橈ノ水面ヲ

離ルヽ高サニ付テハ定説ナシ畢竟水面ノ景状ニ由テ高低ノ差異ヲ生ゼザル可ラザルニ由ルナルベシ而シテ水面ノ平坦ナルトキハ大凡三寸ヲ以テ適度トス然レ𪜈熟練ナル漕手ハ橈ヲ以テ水ニ觸ルヽヿナカルベシ若シ波動アルトキハ其橈ノ波ニ觸ルヽヿナキヲ度トシテ橈ノ高サヲ増スベシ

船ノ平均　船ヲ進ムルヿ迅速ナランヲ欲スルトキハ船ヲ平均ニ保持センカ爲メニ其船體ノ前後左右ニ傾向スルナカランヲ要ス而シテ之ヲ

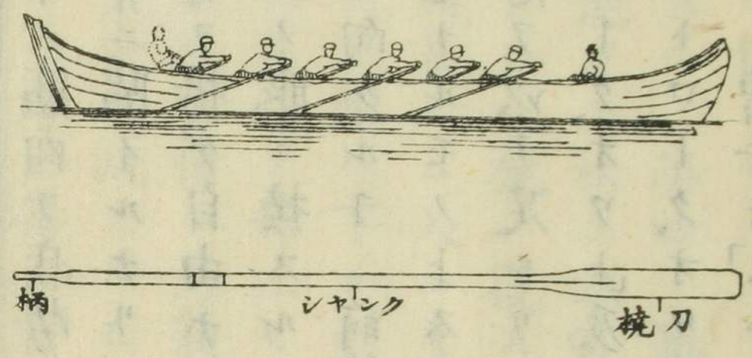
然ラシムルモノ全ク平均力ヲシテ船底ノ中心ニ存セシムルニアリ又其平均力ヲシテ中心ニ存セシメンニハ體量ノ重キ人ヲシテ中央ニ位置ヲ保タシムベシ

初進ノ演習者ニ於テ重ナル過失　第一　「ストローク」ヲ終ラントスルトキ并ニ終リタルトキ體ヲ橈上ニ屈スルヿ　第二　橈ノ船ト直角ヲナスマデ橈ヲ水中ニ入レズシテ「ストローク」ノ半分ヲ大氣中ニナスヿ此過失ハ勞働ヲ避ケントスル人ノ屢々用フル手段ノ一ナリ　第三　臂ヲ

十分ニ伸バサヽルヿヲ之ガタメニ幾分ノ力量ヲ
失フベシ　第四　圓キ漕キ方即チ水ノ内外ニ
於テ撓刃ヲ以テ非常ニ大イナル環ヲ畫クヿ之
ヲ詳言セハ撓ノ復スルキ撓ノ刃ハ高ク空中ニ
揚リ又其水ニ入ルキ深ク入ルヽヿ益シ之カ爲
メ船ノ其側ハ下ニ引カルヽヲ以テ船體ノ平均
ヲ失ヒ進行ヲ妨止セラルベシ　第五　臂ヲ揚
クルヿ此習慣ハ外貌ノ不正ナルノミナラス力
量ノ多分ヲ減スルモノトス　第六　撓ヲ見ン
カ爲メニ漕ク毎ニ首ヲ左右ニ向クルハ肩部幷
ニ首部ノ筋肉ヲ疲勞セシメ且不整ノ漕方ヲナ
スノ弊ニ陷イルナリ　第七　首ヲ前ニ傾ケ爲
メニ肩ヲ揚ゲ自由ナル呼吸ヲ妨グルヿ　第八
凡テ己ノ眼ニ接スルモノヲ見ンカ爲メニ首ヲ
左右ニ向クルヿ　前諸件ハ初進ノ演習者ノ過
失ノ重ナルモノトス而シテ之ヲ避クルハ唯僅
ノ注意ヲ以テ足レリトス

「ストローク」ヲ同一ニ保ツ
「ストローク、オワー」及「ストローク、オワー」ガ「ストローク」ヲ始メシ
キニ他ノ漕手モ「ストローク」ヲナシ且漕手ハ皆

第四十圖



「ストローク、オワー」ト同一ニ「ストローク」ヲナサヾル可ラズ故ニ「ストローク、オワー」ハ漕手中ノ最モ熟練ナル者ヲ以テ之ニ充ツルモノトス故ニ各漕手ハ成丈ケ「ストローク、オワー」ト其擧作ヲ同一ニセン「ヲ勉ムベシ

各「ストローク」ノ長サト深サトヲ能ク測リテ「ストローク、オワー」ノ爲ス所ト精密ニ擧動ヲ續キ「ストローク」ヲ十分同一ニ保ツベシ故ニ各漕手ハ皆ナ「ストローク、オワー」ノ橈ヲ引ク力ノ強弱ニ準シテ之ヲ引クベシ而シテ其橈ヲ引クノ時間相同シト雖モ其力量之ニ稱ハザレバ「ストローク」ノ同一ヲ保ツト云フ可ラズ想フニ各漕手ニシテ「ストローク、オワー」ノ擧動ニ注意スルトキハ己ノ過失ヲ除去スル「ヲ得ベシ船ノ進行ハ全ク各人ノ十分ナル働ニ關スルナリ蓋シ時間

力量方向ヲ同一ニシテ各人ノ力ヲ用フルキニ於テ速ヤカナルベシ殊ニ其時間ヲ同一ニ保ツキハ其働ハ恰カモ一個人ニ出ヅルモノヽ如キニ至ルベシ要スルニ精密ニ「ストローク」ヲ保ツヿハ緊要ノ件ニシテ能ク橈ヲ引ク所ノ漕手ハ自分ヨリ強キモノ或ハ熟練ノ人ノ橈ヲ撃ツベシ其故ハ各人ノ擧動各區々ナルニ由ルサレバ若シ船ノ行進ノ速カナラバ働トカノ一樣ナルニ由ルモノト知ルベシ

橈ノ觸合　橈ノ觸合ヲ生ズルハ重ニ漕手ノ背

部諸筋ノ軟弱ナルカ或ハ故意ニ船ヲ搖動センストスルニ由ルナリ故ニ其背部諸筋・軟弱ニ由ルモノハ漕手ノ力量ヲ増加スルニ至ラザレバ之ヲ防止スル能ハズト雖モ船ヲ動搖セントスルニ出ヅルモノハ其罪全ク懶惰ニアリ而シテ之ヲ矯正スルハ原因ノ如何ニ拘ハラズ甚難シ特ニ背部諸筋ノ軟弱ニ起因スルモノヲ難シトス蓋シ背ノ力量ニ欠乏スルヲ以テ「ストローク」ト同時ニ橈ヲ水中ニテ運ブヿ能ハザレハナリ故ニ體却テ橈ニ接スルノ傾

向ヲ生スルヲ以テ漕力ヲ減スルニ至ルベシ
最初ノ演習　漕櫓術ノ秀逸或ハ優美トハ漕櫓
術ヲ正シクスルニアリ而シテ初進ノ演習者ヲ
シテ各自ノ過失ヲ發見シテ之ヲ矯正セシムル
モノハ漕方ノ徐々ニシテ且精密ノ注意ヲ以テ
漕グノ法ニ優ルモノナレ故ニ初進ノ「ストロー
ク」ハ一分時間二十乃至二十五「ストロークス」ヲ
以テ十分トス「ストローク」ノ度數斯ノ如クナル
片ハ些少ノ過失ト雖モ之ヲ發見スルヲ得ベシ
其過失トハ體ノ運動「ストローク」ノ長サ、橈ヲ水

中ニ入ルヽ一等ノ不正ナルヲ云ノ而シテ此過
失ヲ矯正スルハ宜シク初進ノ時ヲ經過セサル
ヲ要ス若シ其時ヲ失ヘハ矯正スルニ困難ヲ増
スノミナラス終ニ矯正ノ術ナキニ至ルコアリ
サレバ演習者ハ船ヲ漕クニ方リテハ體ヲ前方
ニ屈スルハ單ニ臗骨部ニ於テシ背ヲ眞直ニ保
持シ頭ヲ正シク保チ兩眉ヲ方正ニシ又兩眼ヲ
橈ト水平ノ方向ニ注グベシ又橈ヲ水中ニ入ル
ヽニハ橈刃ヲ以テ水ヲ打チ或ハ飛スコトナク橈
刃ト水面ト直角ヲナサシメ而シテ直チニ之ヲ

引クベシ蓋シ橈ヲ水中ニ入ルニ直角ナラシム
ルヿハ最モ緊要ノヿナリト雖モ之ヲ正シク行
フヿハ甚ダ困難ノ業ナリトス而シテ其力量ヲ
適用スルニ方リテ如何ナル舉動ヲ爲シテ效ア
ルヤハ寧ロ實地ノ演習ニ得ルノ外良法アルナ
シ（前ニ述ベシ如ク橈ト船体ト直角ヲナス時ニ少シク先チテ充分ノ力量ヲ増シ以テ「ストロ
ーク」ノ終ニ至ルモノトス）即チ此方法ニ由テ漕ク𠀤ハ幾分
カ進行ノ速力ヲ増スモノトス而シテ熟達ノ漕
手ノ舉動ヲ傍觀スレハ恰モ水ニ橈ヲ入ルヽヤ
否ヤ充分ニ力量ヲ用フルカ如シト雖モ其實決

シテ然ラザルナリ十分ナル「ストローク」ヲ爲シ
タル𠀤ハ肘ヲ屈シテ體ニ接ケ背ヲ殆ント眞直
ニシ肩ヲ自然ニ保チ肺臓ヲシテ充分ナル伸縮
ヲ得セシメンカ爲メニ胸膈ヲ開キ頭ヲ輕ク保
チ前方ニ屈スルヿナカルベシ故ニ初進ノ演習
ニ於テハ「ストローク」ノ徐々ナルト巨多ノ注意
トヲ以テシヤヽ熟達スルニ從ツテ「ストローク」
ノ度數ト力量トヲ増スベシ而シテ其「ストロー
ク」ノ度數ト力量ヲ増スハ各漕手ノ「ストローク」
ヲ同一ニ保ツ間ニ限ルベシ若シ夫レ各漕手疲

勞シテ同一ノ「ストローク」ヲナス能ハザレバ其度數ト力量ヲ減シ其恢復ヲ俟ツテ再ビ度數ト力量トヲ増スベシ但十分ノ「ストローク」ヲナス片ハ一分時間四十四回ヲ超過ス可ラス之ヲ超過スル片ハ爲メニ作用其度ヲ失シ却テ力量ヲ減ズベシ

舵取

舵取ハ第四十圖ニ示セシ如ク船中ノ最尾ノ腰掛ニ於テ正直ニ且輕易ニ座シ「ストローク」ト倶ニ前方ニ運動スルノ準備ヲナシ膝ヲ開キ脚ヲ

組ミ兩手ニハ舵紐ヲ取リ手ニ捲キテ緊握シ船ヲ右方ニ進行セシメント欲セハ右方ニ引キ左方ニ進行セシメント欲セハ左方ニ引クベシ而シテ若シ河中船ノ進行ヲ曲折セザル可ラザル塲合ニ於テハ其曲折スベキ塲所マデハ眞直ニ船ヲ進メ角度ヲ廣クシテ曲クベシ又突然ニ舵ヲ引カズ艫ハ漸次ニ曲グベシ其舵ヲ引クヤ橈ノ水中ニ在ル間ハ徐々ニ之ヲ引キ水中ヨリ出デタル片ハ强ク之ヲ引クベシ此事タル些事ニ似タリト雖モ大イニ漕手ヲ扶クルノ效アリ

「ストローク」ヲ始ムルトキハ舵取ハ「用意」ノ令ヲ下シ各漕手ヲシテ兩臂ヲ出シテ「ストローク」ノ用意ヲナサシメ然ル後「漕ゲ」或ハ「始メ」ノ令ヲ下スベシ此令ニテ各漕手ハ一齊ニ漕出シ「一」ニテ橈ヲ引キ「二」ニテ之ヲ回復（回復トハ用意ノ位置ニ復スルヲ云フ而シテ回復ハ速カナルベシ）スベシ船ノ進行ヲ緩メントスルトキハ「輕ク」ノ號令ヲ下シ或ハ場合ニヨリテハ「左舷（トリカヂ）輕ク」（強ク）「右舷（オモカヂ）強ク」（輕ク）ノ號令ヲ下スベシ又漕キノ早キトキハ「靜カニ」ノ號令ヲ下シ「ストローク」ヲ緩クスベシ或ル場合ニ於テハ「一番強ク」或ハ「二番輕ク」等ノ號令ヲ下スベシ而シテ總テ此號令ハ一「ストローク」ノ終ニ於テ下スモノトス（一番二番ハ船ノ艫ヨリ計算スルモノトス又右舷トハ船ノ右側ヲ云ヒ左舷トハ船ノ左側ヲ云フ）又橋杭或ハ他船ノ側其他橈ニ抵觸スベキモノアル場合ニ遭フトキハ「流セ」ノ號令ヲ下シ或ハ「左舷流セ」「右舷流セ」ノ號令ヲ下スベシ此號令アルトキハ其命令セラレタル方ノ橈ヲ突出スベシ又「右舷短カク」（左）或ハ單ニ「短カク」ノ號令アルトキハ皆橈ヲ短カクシテ漕グベシ又橈ヲ流サシメタル後更ニ漕カシメンニハ「右舷前ヘ」或ハ「左舷前

ヘ」或ハ「前ヘ」ノ號令ヲ下スベシ又船ヲ右ニ曲ケ或ハ之ヲ廻ハサシメント欲スルトキハ「右舷後ヘ」「左舷前ヘ」ノ號令ヲ下スベシ此ノ令ニテ右舷ノ漕手ハ皆通常ノ反對ニ漕キ左舷ノ漕手ハ通常ノ如ク漕クベシ又船ノ方向ヲ變シタル後眞直ニ進メントスルトキハ「前ヘ」ノ令ヲ下スベシ

競漕規則

第一條　總テ競漕船ハ次ノ方法ニ由リテ發船スベシ即チ發船者ハ競船ノ準備セシヲ見テ出立ノ合圖ヲ與フベシ（用意、用意一、二、三「始メ」）

第二條　發船者ハ發船ヲ不適當ト認ムルトキハ該船ヲ舊位ニ呼戻スベシ而シテ各船再ビ出立スルヲ嫌フヿヲ得ズ若シ其命ニ背クモノハ競漕ノ權ヲ失フモノトス

第三條　何レノ船ト雖モ出立ノ定時ニ於テ適當ノ場所ニ在ラザルトキハ判者ハ之ヲ除去スルヿヲ得

第四條　判者ハ自ラ發船者トナルヿヲ得若シ別ニ發船者アルトキハ總テ判者ノ支配ニ屬スルモノトス

第五條　競漕中各船ハ自己ノ水路ヲ保守スベシ若シ其水路ヲ外ルヽ𪜈ハ其危難ヲ受クベシ

第六條　各船ノ水路ハ直線ニシテ他船ノ水路ト并行スベシ而シテ終始之ヲ變ゼザルモノトス

第七條　競漕中判者ハ各船ノ水路ト適當ナル進行ニ關シテ唯一ノ判定者タルベシ

第八條　不正ノ所業ハ細大共之ヲ許サズ若シ不正ヲ行ヒタルモノアル𪜈ハ競漕ヨリ之ヲ除去スベシ

第九條　競漕ヲ始メタル後ハ船橈若クハ身體ニセヨ互ニ觸合フ𪜈ハ不正トナス然レ𪜈判者其行爲ニ付テ妨害ナシト認メタル𪜈ハ此限ニ非ズ

第十條　競漕中若シ不正ヲ行フノ危險ニ瀕スル者アル𪜈ハ判者先ツ之ニ注意ヲ加フベシ

第十一條　判者ハ不正ニ付テ訴訟ヲ受クル𪜈ハ之ヲ判決スベシ

第十二條　不正ノ訴訟ハ船中ニアリテ競漕者

自ラ之ヲ爲スベシ

第十三條　不正ノ場合ニ於テ判者ハ左ノ權利ヲ有スルモノトス

第一　不正ヲ犯シタル船ヲ除キテ他ノ船ヲバ不正ヲ受ケタル地位ニ復スルヿ

第二　不正ヲ犯シタル船ヲ除キ被害船及其他ノ船ヲシテ同日又ハ他日ニ於テ更ニ競漕ヲナスヿヲ命ズルヿ

第三　不正ヲ犯シタル船ヲ除キ他船ヲ不正ノ爲サレタル場所ヨリ再ビ出立セシムルヿ

第十四條　各船ハ自己ノ過失ニ於テ忍ブベシ

第十五條　何レノ船ト雖モ競漕者ヲ扶助スル乎若クハ方向ヲ指揮スル目的ヲ以テ競漕ニ伴フヿヲ許サズ又斯様ナル扶助ヲ受ケタル船ハ判者ノ見込ヲ以テ不適當トナスベシ

第十六條　判者ハ競漕并ニ競漕ヨリ生ズル總テノ事件ヲ裁判スルノ權アリ故ニ競漕ノ始終ハ判者ノ命ニ從ハザル可ラズ而シテ判者ノ命ヲ以テ終審トス

第十七條　判者ノ命ニ服従スルヿヲ忍ビ得ザル競漕者ハ不適當ノモノトシテ之ヲ除クベシ

第十八條　判者ハ其正否ヲ決定スルノ場合ニ於テ其日ノ終マデ之ガ裁判ヲ猶豫スルノ權アリ

戸外遊戯法一名戸外運動法大尾

明治十七年十月廿七日版權免許
同　十八年四月出版

定價金四拾錢

編纂人　東京府平民　坪井玄道
出版人　東京府士族　田中盛業
　　東京府平民　坪井玄道

發兌　東京本町三丁目　金港堂　原亮三郎本店
　　學校用書肆　大坂心齋橋筋北久寶寺町四百十二番地　金港堂　原亮三郎支店